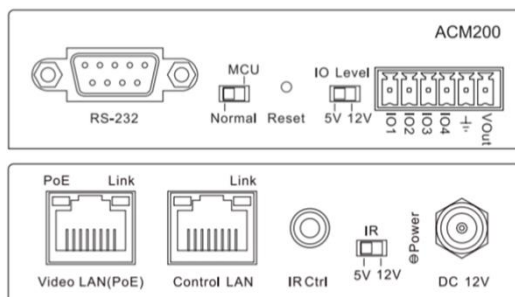


# マルチキャスト アドバンスドコントロールモジュール ACM200 取扱説明書

**ご注意:**

ACM200のファームウェアには、

- ①IP200UHD、IP250UHD シリーズ専用
- ②IP50HD シリーズ専用

がございます。

ご利用いただく前に接続されるシリーズに合わせて専用ファームウェアをアップデートしてください。

※初回アップデート後は、ACM200 本体のリセットボタンを押して、必ず工場出荷状態にしてからご利用ください。

## 改定履歴

バージョン	提供日	変更点
Ver1.0	2021/09/16	初版
Ver1.1	2021/12/10	IP200UHD 専用ファームウェアを初回インストール時の注意点追加
Ver1.2	2023/01/30	ビデオウォールモード設定時注意点の追加
Ver1.3	2023/06/30	連絡先情報の更新
Ver.1.4	2023/12/8	IP250UHD-TX・RX 操作方法の追加

## 安全上のご注意

この度は、ACM200 をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。



この取扱説明書は、本製品の使い方と使用上の注意事項について記載しています。


本製品をご利用になる前に必ず本書をお読みになり、内容をご確認のうえにご利用ください。本製品を安全に正しくお使い頂き、お使いになる方や他の人への危険、財産への損害を未然に防止するために守って頂きたい事項を示しています。

## 安全にお使いいただく為に

誤った取扱いをした場合に生じる危険とその程度を次の区分にて説明します。

本取扱説明書内に使われている記号(例)の意味は下記の通りです。

 <b>警告</b>	誤った取り扱いをしたときに、死亡や重症に結びつく可能性があるもの。
 <b>注意</b>	誤った取り扱いをしたときに軽傷または建築物・財産などの損害に結びつくもの。

	操作に関するヒントまたは追加情報です。
---	---------------------

 **警告**

- 本取扱説明書で記載されている以外の使い方をしないでください。本取扱説明書の指示に従わずに起きた、いかなる事故・損害に対して、弊社は一切責任を負いません。
- 本製品は屋内での使用に限ります。
- 本製品は直射日光にあたる場所や、冷暖房機器の近く、温度の高い所(結露しているところ)、ほこりや油、薬品、水などがかかる場所には設置しないでください。
- 本製品は安定した場所に設置してご使用ください。不安定な場所から落としたり、ぶつけたりするなどの衝撃を与えないでください。故障や破損の原因となります。
- 本製品の分解、改造は絶対に行わないでください。機器の故障や感電、火災などの恐れがあります。使用中に本体から煙が出たり、異臭・異音等が発生したりする場合は、すぐに使用を中止してACアダプターおよびご使用のすべてのケーブルを抜き、販売店または弊社までご連絡ください。
- LAN ケーブルなどケーブル類を抜き挿しする場合は、必ずプラグを持って抜いてください。ケーブルを引っ張って抜いたりすると、ケーブルの断線、動作不具合、感電や火災の恐れがあります。

 **警告**

- 濡れた手で、本製品およびケーブル類を触らないでください。感電や故障の恐れがあります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合、ほこりをきれいに拭き取ってください。感電や火災の恐れがあります。
- 機器内部に燃えやすいものや、金属などを入れないでください。また、水などかからないようにご注意ください。感電や火災の恐れがあります。上記の状態になった場合はすぐにご使用を中止してください。
- 使用中に本体から煙が出たり、異臭・異音等が発生したりする場合は、すぐに使用を中止してACアダプター、およびご使用のすべてのケーブルを抜き、販売店または弊社までご連絡ください。
- 長時間ご使用にならない場合は、安全のためACアダプター、ケーブル類を全て抜いて保管してください。火災や故障の恐れがあります。
- 本製品の分解、改造は絶対に行わないでください。機器の故障や感電、火災などの恐れがあります。
- 本製品を分解されますと保証の対象外となりますのでご注意ください。

 注意

- 電源を入れたまま、LANケーブルの抜き差しを行わないでください。損傷の原因になり、この原因による故障はサポート対象外となります。
- LANケーブルを束巻き状態で使用すると伝送に影響が出ることがございます。伸ばした状態をご利用下さい。
- 本製品の上に重い物を置かないでください。
- ラックなどに設置するとき、放熱を妨げないよう、本製品と他の機器の間に隙間を空けてください。

 注意

- 本製品両側の排熱口を塞がないようにしてください。排熱がうまくいかずに故障する恐れがあります。また、排熱口を定期的に掃除してください。
- お手入れの際は、接続ケーブルをすべて抜いてから行ってください。また、科学雑巾、ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。水洗いは絶対に行わないでください。変色や変形、故障の原因になります。でお手入れの際、乾いた布をご利用ください。
- 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従ってください。内容については、各地方自治体へお問い合わせください。

※製品のデザイン、仕様、外観、価格は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

# 目次

改定履歴 .....	2
安全上のご注意 .....	2
製品概要 .....	7
はじめに .....	7
Blustream マルチキャストシステム .....	7
製品のラインナップ .....	7
Blustream マルチキャスト用ネットワークスイッチ要件 .....	7
推奨ネットワークスイッチ .....	8
PoE 電源供給計算 .....	8
アップリンク接続 .....	8
Dante オーディオ用ネットワークスイッチ要件 .....	8
接続図 .....	9
IP200UHD-TX/RX から構成されるマルチキャストシステム .....	9
IP250UHD-TX/RX と IP200UHD-TX/RX 混在マルチキャストシステム .....	9
MODE 0 設定時接続例 .....	10
MODE 1 設定時接続例 .....	10
本体の取付 .....	11
専用マウントブラケット取付 .....	11
各部名称 .....	11
接続ケーブル .....	12
LAN ケーブル .....	12
シリアル(RS-232)通信接続 .....	12
電源を入れる/切る .....	13
ウェブ GUI ガイド .....	13
サインイン / ログイン .....	13
ウェブ GUI メニュータブ説明 .....	14
ACM200 ファームウェアの書き換え .....	15
マルチキャストシステムの構築 .....	16
1. デバイスのスキャン .....	16
2. トランスミッタとレシーバのファームウェアアップデート .....	16
レシーバの設定 .....	17
トランスミッタの設定 .....	19
映像の切り替え .....	21
固定信号ルーティング .....	22
ビデオウォールの設定 .....	22
ビデオウォールの新規作成・削除 .....	23
画面回転・表示アスペクト比・ベゼルの設定 .....	24
ビデオウォールのグループ分け .....	24
ビデオウォールコントロール(ビデオウォール表示の切り替え) .....	25
プレビュー(トランスミッタとレシーバのサムネイル画像を確認) .....	26
デバイスの新規追加 .....	26
デバイスの交換 .....	27
マルチキャストシステムの再構築 .....	28
ログインアカウント設定 .....	29
管理者用ログインパスワードの変更 .....	29

ユーザーアカウントの新規作成.....	29
ACM200 本体設定.....	30
シリアル(RS-232)通信及び Telnet コマンドで制御する.....	32
シリアル(RS-232)通信設定値.....	32
Telnet 通信ポート.....	32
ターミナルエミュレータソフトウェア設定例(Tera Term).....	32
シリアル(RS-232)通信及び Telnet コマンド.....	33
システムインフォメーションコマンド.....	34
システムコントロールコマンド.....	35
レシーバのコントロールコマンド.....	36
トランスミッタのコントロールコマンド.....	38
ビデオウォールのコントロールコマンド.....	39
よくある質問 FAQ.....	40
主な仕様.....	41
外形寸法.....	41
サポート専用問い合わせ先.....	42

## 製品概要

アドバンスドコントロールモジュール ACM200 はビデオ配信用ネットワークスイッチと、他の用途向けネットワークスイッチとをブリッジの役割として接続し各ネットワークスイッチでのトラフィックパフォーマンスの最適化を保持する他、TCP/IP、RS-232、IR 経由でのサードパーティコントロールシステムとの統合が可能です。マルチキャストシステムのコントロールや設定をウェブインタフェース経由で提供しドラッグ・アンド・ドロップでの映像ソース選択やプレビュー、各送受信機 IR、RS-232、USB/KVM、オーディオ、ビデオソースを個別にルーティングする機能を有します。その他、専用 iOS/Android アプリ「ドラッグ・アンド・ドロップ TV」との接続が可能でタブレットやスマートフォンからのコントロールも可能となります。マルチキャストシステム構築を行う上で複雑なネットワークインフラストラクチャーをより簡単に設定が可能となります。

## はじめに

### Blustream マルチキャストシステム

Blustream UHD マルチキャストは 1Gb イーサネットネットワークを活用し、4K HDMI 信号を低遅延で伝送するマルチキャストシリーズの製品です。独自ロスレス圧縮技術を採用し、HDMI、IR、RS-232、USB/KVM、Dante オーディオ信号を最大 100m、LAN ケーブルを使用して伝送します。ネットワークスイッチを介したマトリックス伝送やビデオウォール表示構成、1 対 1 伝送、および 1 対多伝送が可能です。

### 製品のラインナップ

- Dante オーディオ非対応モデル: IP200UHD-TX(送信機)、IP200UHD-RX(受信機)
- Dante オーディオ対応モデル: IP250UHD-TX(送信機)、IP250UHD-RX(受信機)
- アドバンスドコントロールモジュール: ACM200(IP200UHD、IP250UHD 混在可能)

### Blustream マルチキャスト用ネットワークスイッチ要件

ネットワークスイッチの採用検討をする際は、以下のネットワーク機能をサポートしていることを確認してください。

- マルチキャスト
- インスタントリーブ/ファストリーブ/イミディエイトリーブ
- IGMP スヌーピング
- ジャンボフレーム/ジャンボパケット/ MTU(最大伝送ユニット)
- 省電力モード(例: Energy Efficient Ethernet)を確実にオフ可能(PoE 電源供給使用時)<sup>※1</sup>

※1 PoE(Power over Ethernet) ネットワークケーブルを通じて電力供給を行う技術の一種です。PoE を使用すると、同じケーブルを通じてデバイスに電力を供給することができます。

## 推奨ネットワークスイッチ

- NETGEAR 製 M4250 シリーズ(PoE 対応モデル)
- Cisco 製 CBS350 シリーズ(PoE 対応モデル)

## PoE 電源供給計算

Blustream UHD マルチキャスト各デバイスの消費電力は下記の通りです。ポートごとに十分な電力を供給できるネットワークスイッチをご利用ください。

IP200UHD-TX(送信機)、IP200UHD-RX(受信機)	約 10W
IP250UHD-TX(送信機)、IP250UHD-RX(受信機) <sup>※2</sup>	約 13W
ACM200(アドバイスドコントロールモジュール)	約 6W

## アップリンク接続

Blustream UHD マルチキャストデバイス通信時使用する帯域幅は下記の通りです。ネットワークスイッチ間を接続するアップリンクポートの帯域幅を考慮し、マルチキャストシステムの設計を行ってください。<sup>※3</sup>

機種	4K 映像信号伝送時	1080p 映像信号伝送時
IP200UHD-TX(送信機)	最大 900Mbps	最大 500Mbps
IP200UHD-RX(受信機)	常用400Mbps	常用300Mbps
IP250UHD-TX(送信機)、 IP250UHD-RX(受信機)		

### ご注意

Blustream マルチキャストシステム運用時は、全てのデバイスを同一 VLAN 内に運用してください。異なる VLAN 間の通信には対応していません。

## Dante オーディオ用ネットワークスイッチ要件

Dante ネットワークを構成するには以下の要求を満たすネットワークスイッチが必要となります。

### 必須要件

- 1Gbps 対応ノンブロッキングネットワークスイッチ(レイヤー2 以上)であること
- 省電力モード(例:Energy Efficient Ethernet)を確実にオフできること
- 4 つのキューを持つ QoS(Quality of Service)に対応すること
- DiffServ(DSCP)QoS に対応すること

### 推奨要件

- マネージドスイッチ
- DHCP に対応していること
- IGMP Snooping v2/v3 に対応していること

※2 IP250UHD-RX に USB マウス、キーボードのみ接続してください。消費電力が高い USB デバイスを接続すると、IP250UHD-RX が再起動する場合があります。

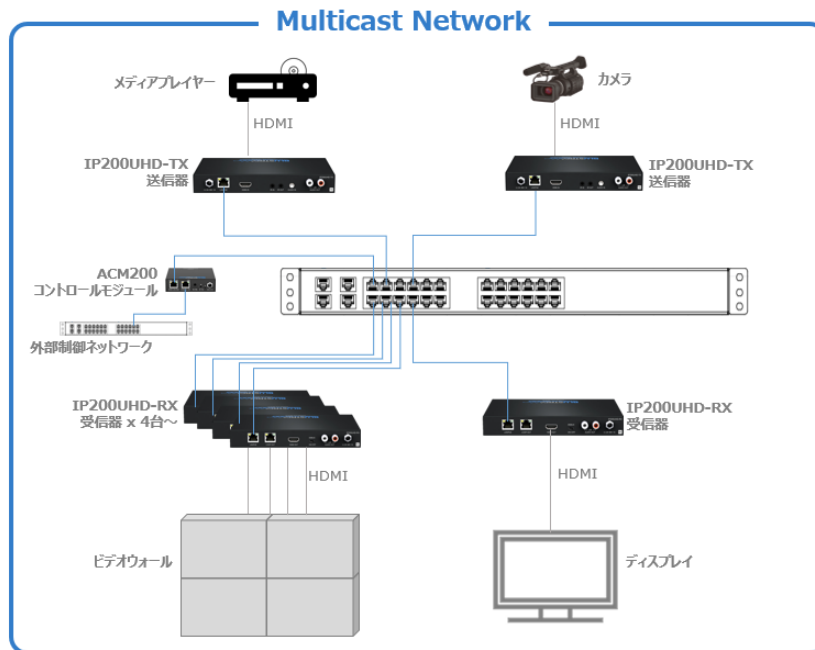
※3 48kHz 2ch Dante オーディオは6Mbps(ユニキャスト)帯域幅を使用します。



詳しい要件は Audinate 公式ページにてご確認ください。  
<https://www.audinate.com/learning/technical-documentation?lang=ja>

## 接続図

### IP200UHD-TX/RX から構成されるマルチキャストシステム



### IP250UHD-TX/RX と IP200UHD-TX/RX 混在マルチキャストシステム

IP250UHD-TX/RX は 2 つの通信モードに対応し、各ポートの通信データの種類は下記の通りです。

ポート	LAN 1/SFP※4	LAN 2
MODE 0	AV over IP + Dante	-
MODE 1	AV over IP	Dante

用途に応じて、モードを設定して運用してください。

MODE 0: マルチキャストと Dante オーディオを同一ネットワークスイッチでの運用

MODE 1: マルチキャストと Dante オーディオを別々のネットワークスイッチでの運用

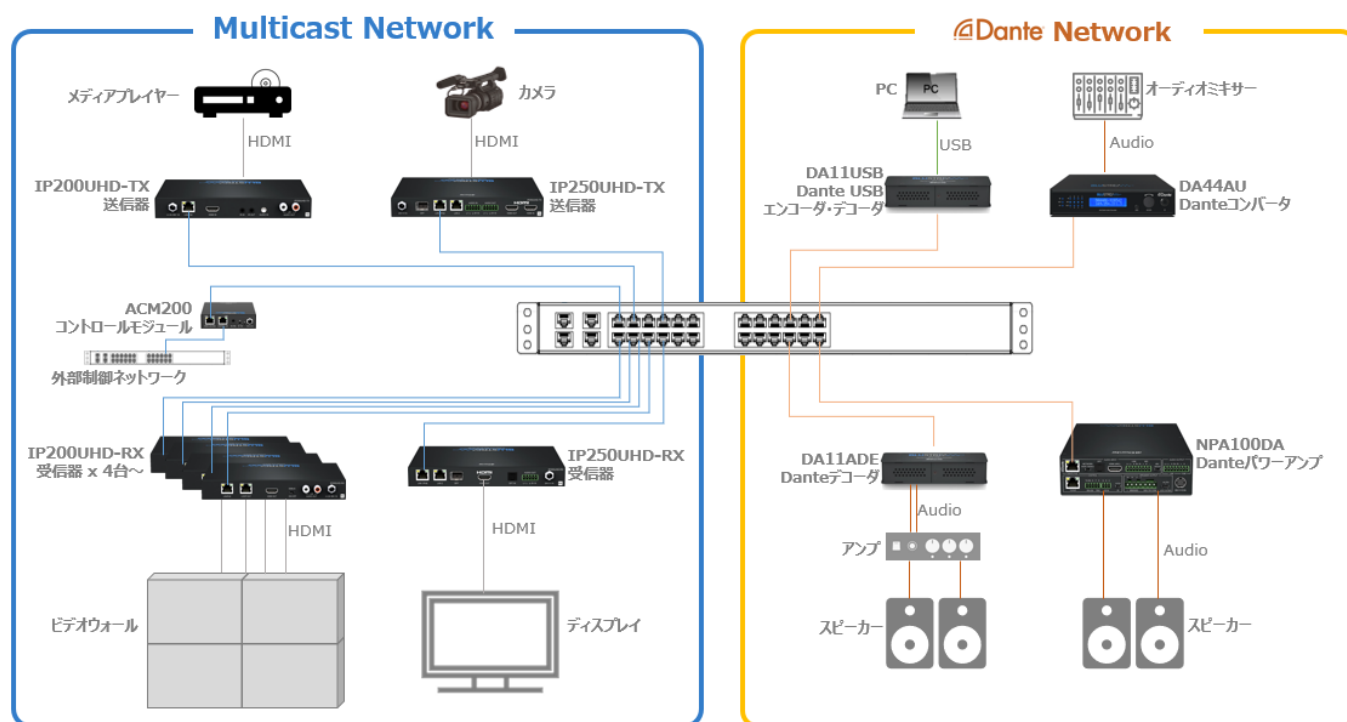
#### 重要

SFP モジュールに使用する光ファイバーケーブル、延長距離などについて、各 SFP モジュールメーカーにご確認ください。

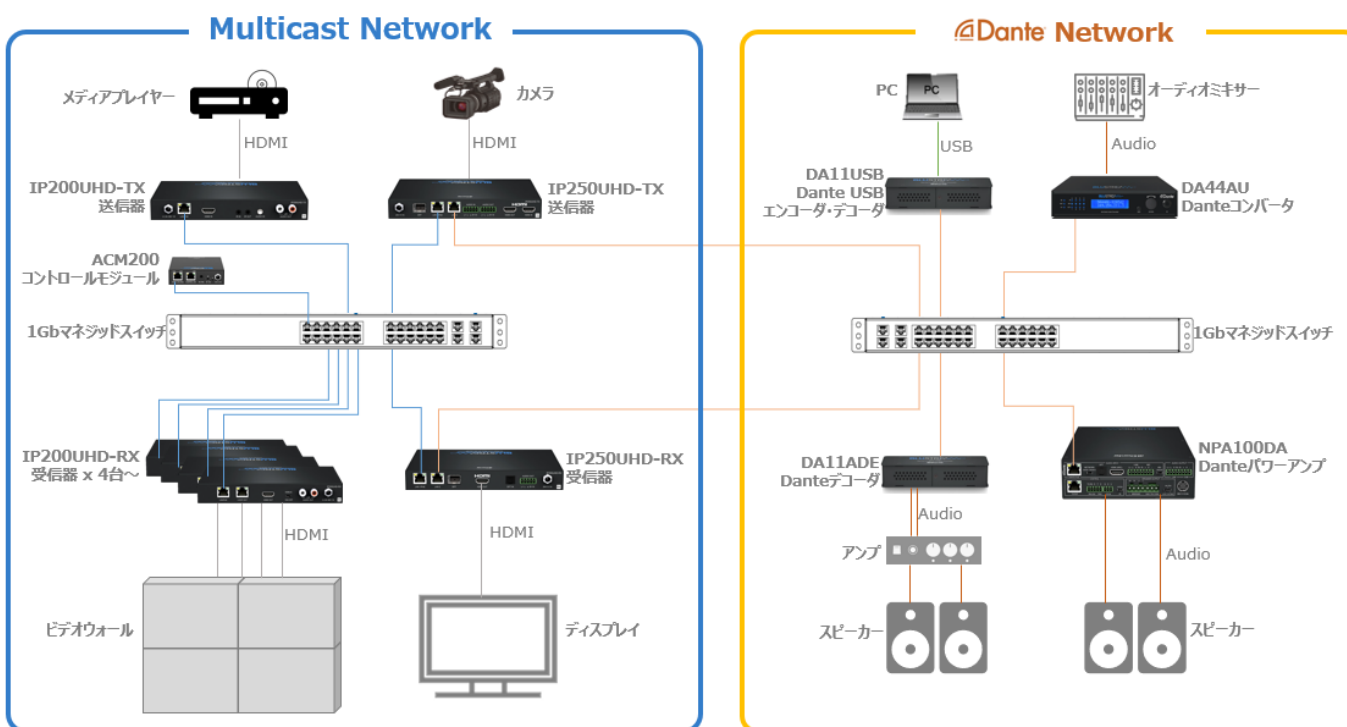
通信エラーが生じる可能性があるため、LAN ケーブルと SFP モジュール・光ケーブルを同時接続しないでください。

※4 LAN 1/PoE と SFP ポートは相互に排他動作しますので、同時に使用することができません。

## MODE 0 設定時接続例



## MODE 1 設定時接続例

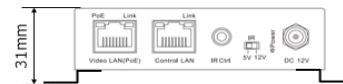
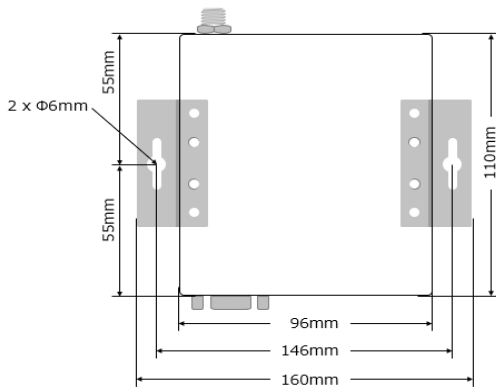


## 本体の取付

### 専用マウントブラケット取付

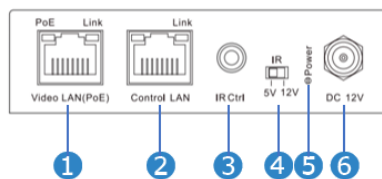
付属のマウントブラケットをネジ(付属)で下図のように、本体の側面に取り付けます。

本機底面

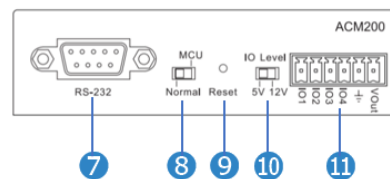


## 各部名称

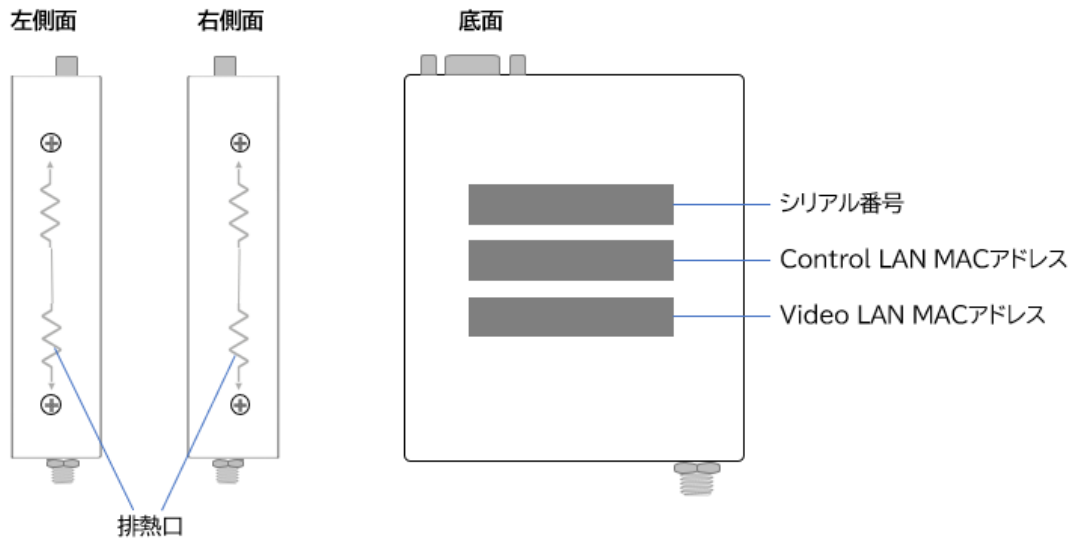
前面



後面



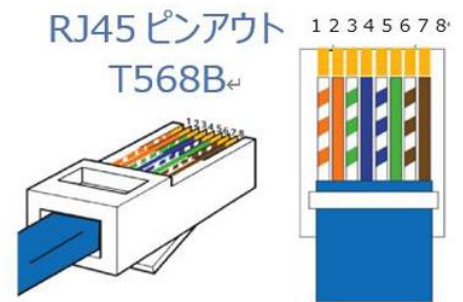
番号	表示・端子	説明
①	Video LAN(PoE)	PoE 対応 RJ-45 ポートです(100Mbps)。AVoIP マルチキャストネットワークスイッチに接続します。接続先は本書 P8 <a href="#">接続図</a> を参照してください。
②	Control LAN	RJ-45 ポートです(100Mbps)。外部制御用ネットワークに接続します。接続先は本書 P8 <a href="#">接続図</a> を参照してください。
③	IR Ctrl	使用しません。
④	IR 5V/12V	使用しません。
⑤	Power	電源インジケータです。黄色点滅:電源オン、消灯:電源オフ
⑥	DC 12V	DC 電源入力端子です。PoE での電源給電を行わない場合に使用します(AC アダプター別売)。
⑦	RS-232	シリアル(RS-232)通信用 D-sub 9 ピン端子です。サードパーティコントロールデバイスと接続しマルチキャストシステムを制御できます。
⑧	NORMAL/MCU	MCU アップデートスイッチです。使用しません。“Normal”の位置でご使用ください。
⑨	Reset	リセット用ホールスイッチです。10 秒以上長押しすることで工場出荷時設定に戻ります。
⑩	IO Level	使用しません。
⑪	IO1/2/3/4/ ±/VOut	使用しません。



## 接続ケーブル

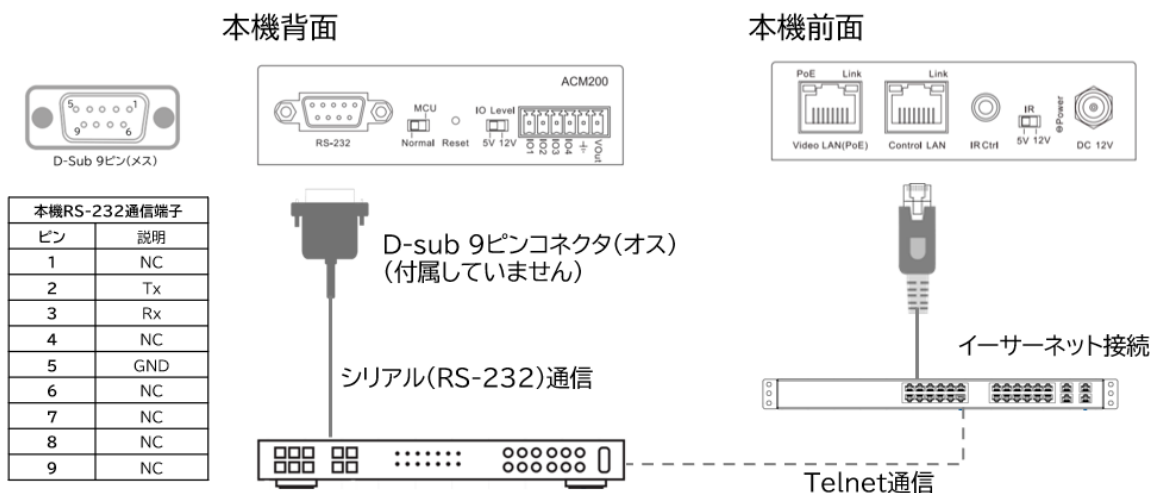
### LAN ケーブル

本機は Cat5e/6 に対応しています。接続する LAN ケーブルは、Cat6 を推奨します。また、正しい RJ-45 ピン構成で終端してください。LAN ケーブルは「ストレート」（ピン対ピン）、EMI 電磁干渉の影響を受けにくい T568B 結線規格で配線することを推奨します。LAN ケーブルを敷設する際には、できるだけ高品質な LAN ケーブルを採用することをお勧めします。



### シリアル(RS-232)通信接続

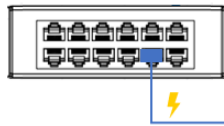
本機のシリアル(RS-232)通信端子経由で、サードパーティコントロールシステムから制御コマンドを送信することで本機を制御できます。詳しい制御コマンドは本書 P.32 [RS-232 及び Telnet コマンド](#) を参照してください。



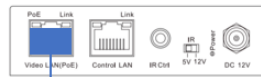
## 電源を入れる/切る

本機への電源供給方法は PoE 電源入力または AC アダプター（別売り）電源入力の 2 つの方法があります。本機は電源オン/オフスイッチがなく、前面の電源インジケータで本体のオン/オフを確認できます。

IEEE802.3af対応  
PoE機能付きネットワークスイッチ



PoE電源供給



ACアダプター電源供給

### ご注意

本機への PoE と DC 電源入力は同時に行わないでください。また、本機には IEEE802.3af または 802.3at に非対応の PoE 電源供給機器は絶対に使用しないでください。故障の原因になる場合があります。

## ウェブ GUI ガイド

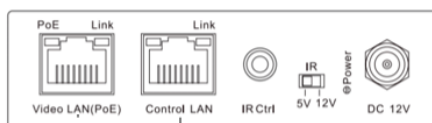
ACM200 ウェブ GUI では、システム自動構成の他、ビデオ配信ネットワークに接続された送受信機の制御とモニタリングが可能です。ウェブ GUI は、同じネットワークセグメント上にある PC、タブレット、スマートフォンなどのウェブブラウザからアクセス可能です。

### サインイン / ログイン

ウェブ GUI にログインする前に、アクセスするデバイス（例：PC/タブレット）が ACM200 のコントロールポートと同じネットワークセグメントに接続されていることを確認してください。

ログインするには、ウェブブラウザ（Chrome、MS Edge など）の URL 入力欄に、ACM200 のデフォルトの IP アドレス入力してください。

デフォルト IP アドレスは下記の通りです。



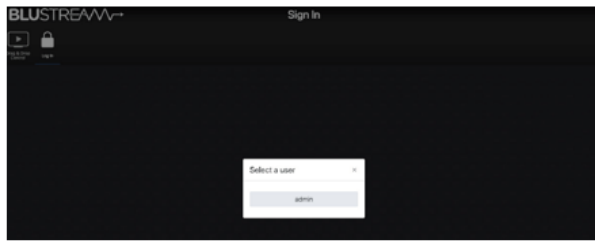
Control LAN デフォルトIP: 192.168.0.225/24 DHCPオフ

Video LAN(PoE) デフォルトIP: 169.254.2.225/16 (変更不可)

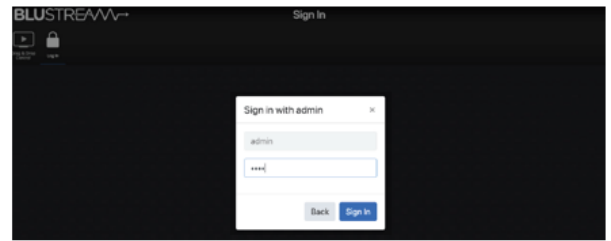
ウェブ GUI に接続すると、ログイン画面が表示されます。

ユーザー名 'admin' の初期ログインパスワードは下記の通りです。

**1234**



ログイン画面



ログイン画面



ログインパスワードは「Update Password」タブで変更できます。管理者‘admin’以外の他のアカウントも作成できます。作成したログインユーザーID はログイン画面で表示されま

す。

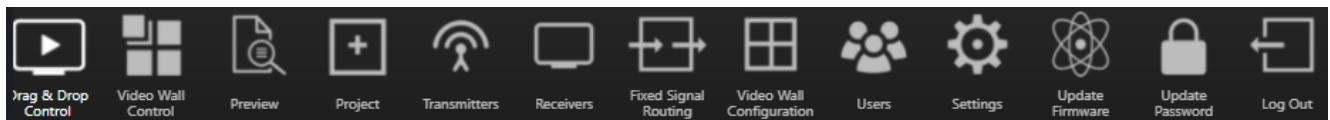
## ウェブ GUI メニュータブ説明

システムへログインしていない状態(ゲストモード)では表示メニューは制限され下記のメニューのみ表示されます。



表示	説明
Drag & Drop Control	マトリックスモードの映像の切り替え
Video Wall Control	ビデオウォール表示映像の切り替え、ビデオウォール Configuration 設定の適用
Log In	ウェブ GUI のログイン

管理者(admin)でログインすると、すべてのメニューが表示されます。



### ご注意

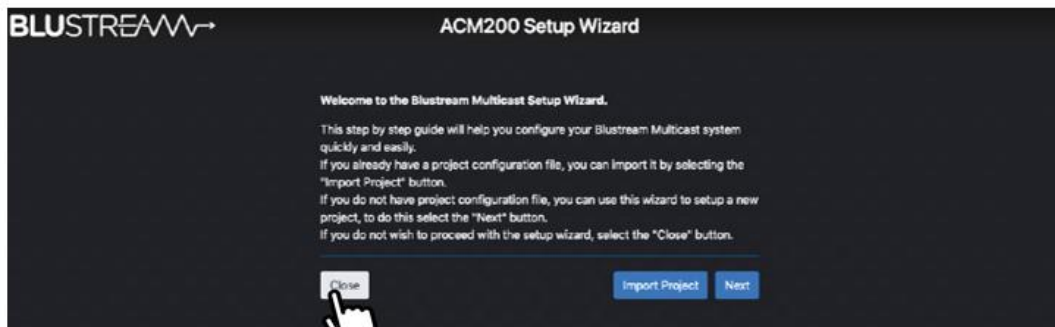
注意:管理者ログインユーザー名とログインパスワードをエンドユーザーに預けることはお勧めできません。

表示	説明
Drag & Drop Control	マトリックスモードの映像の切り替え
Video Wall Control	ビデオウォール表示映像の切り替え、ビデオウォール Configuration 設定の適用
Preview	トランスミッタ、レシーバの表示画面プレビュー(約 5 秒置き更新)
Project	マルチキャストシステムの構成確認、設定変更、新しいデバイスのスキャン
Transmitter	各トランスミッタの詳細設定
Receiver	各レシーバの詳細設定
Fixed Signal Routing	各レシーバの映像、音声、USB、IR、RS-232、CEC 信号のルーティング
Video Wall Configuration	ビデオウォールの詳細設定

Users	ウェブ GUI ログインアカウントの管理
Settings	本機のネットワークの詳細設定
Update Firmware	本機及びトランスミッタ、レシーバのファームウェアアップグレード
Update Password	現在ログインしているアカウントのパスワードの変更
Log Out	ログアウト

## ACM200 ファームウェアの書き換え

ウェブ GUI にログインした後、セットアップウィザード(初期設定)画面が表示されます。



セットアップウィザード画面

セットアップウィザードを行う前に、まず、ACM200 のファームウェアを構築するマルチキャストシステム種類に応じてファームウェアを書き換える必要がありますので、‘Close’ をクリックします。

ACM200 のファームウェアは 2 種類があります。

マルチキャストUHD



IP200UHD-TX/RX



IP250UHD-TX/RX



ACM200

IP200UHD/IP250UHD接続用  
ACM200専用ファームウェア

マルチキャストFHD



IP50HD-TX/RX



ACM200

IP50HD接続用  
ACM200専用ファームウェア

## ACM200 ファームウェアのアップデート方法

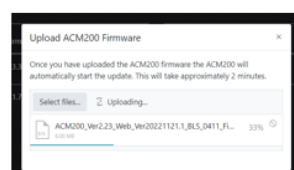
1. ファームウェアをダウンロードします。

ダウンロード先：<https://www.ad-techno.com/support/download/software/>

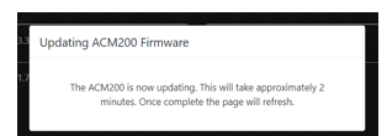
2. ウェブ GUI の‘Update Firmware’メニュータブをクリックし、ACM200 のファームウェアをアップデートします。



Upload ACM200 Firmware



ファームウェアファイルを選択



アップデート完了  
(所要時間=約2分)

### 重要

ファームウェアアップデート途中はデバイスの電源を落としたり、ACM200 のウェブ GUI ページを更新したりしないでください。デバイスが故障する場合があります。



ACM200 のファームウェアは約 2 分間かかります。アップデート後、ウェブページは自動的に更新されますが、ウェブページが更新されない場合は、新しいブラウザタブから ACM200 の IP アドレスを入力し、再度ログインしてみてください。

## マルチキャストシステムの構築

ACM200 を最新のファームウェアにアップデートした後、マルチキャストシステムの構成を行います。

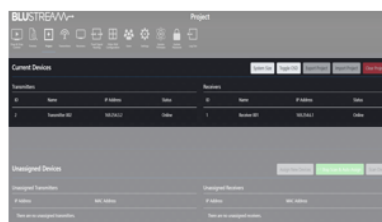
### システム構成手順

#### 1. デバイスのスキャン

- すべてのデバイスを接続した後、'Power' メニュータブをクリックします。
- 'System Size' をクリックし、構築するマルチキャストのシステムサイズを設定します。トランスミッタとレシーバの総台数が 75 台以下(75 台を含む)の場合は '0-75 Products'、75 台を超える場合は '75+Products' を選択します。
- 'Continuously Scan & Auto Assign' をクリックすると、デバイスのスキャンが開始します。
- すべてのデバイスをスキャンした後、'Stop Scan & Auto Assign' をクリックし、スキャンを終了します。



Continuously Scan & Auto Assign をクリック



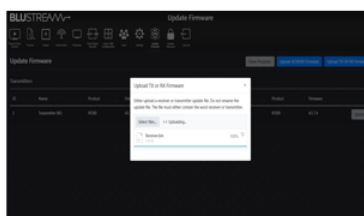
デバイススキャン画面



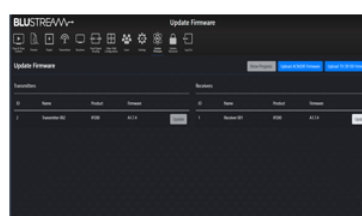
Stop Scan & Auto Assign をクリック

#### 2. トランスミッタとレシーバのファームウェアアップデート

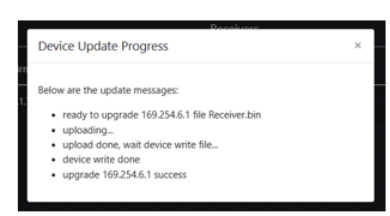
- ファームウェアをダウンロードします。
  - ダウンロード先：<https://www.ad-techno.com/support/download/software/>
- ウェブ GUI の 'Update Firmware' メニュータブをクリックし、トランスミッタとレシーバのファームウェアをアップデートします。



ファームウェアファイルを選択



デバイスを選択(1台ずつ)



アップデート完了

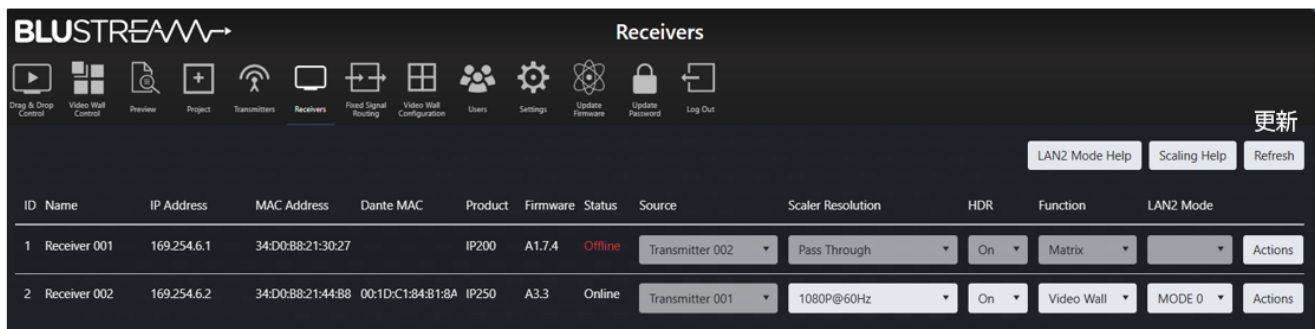
### 重要

ファームウェアアップデート途中はデバイスの電源を落としたり、ACM200 のウェブ GUI ページを更新したりしないでください。デバイスが故障する場合があります。ファームウェアアップデートが完了すると、デバイスが自動的に再起動します。



## レシーバの設定

ファームウェアのアップデートした後、ウェブ GUI の ‘Receivers’ メニュータブで、レシーバのステータス情報の確認、スケーラ、動作モード変更を含む各種設定を行います。



‘Receivers’ メニュータブ

### 項目説明

項目	説明
ID	レシーバ ID 番号を表示します。シリアル(RS-232)通信で制御する際、この ID 番号を使用します。
Name	レシーバのデバイス名を表示します。‘Actions’ 設定メニューで変更可能です。
IP Address	レシーバの IP アドレスを表示します。
MAC Address	レシーバの MAC アドレス(AVoIP)を表示します。
Dante MAC	レシーバの IP アドレス(Dante)を表示します。(IP250UHD-RX のみ表示)
Product ID	レシーバの型番を表示します。
Firmware	レシーバのファームウェアバージョンを表示します。
Status	レシーバのオンライン/オフラインステータスを表示します。‘Offline’ (オフライン)が表示された場合は、該当レシーバのネットワークスイッチへの接続や電源を確認してください。
Source	レシーバが受信しているソース(トランスミッタのデバイス名)を設定します。
Scaler Resolution	レシーバに内蔵されているビデオスケーラで、出力解像度を調整します。ダウンスケーリング、アップスケーリングの両方に対応しています。スケーラ設定は以下から選択可能です。 Pass Through(初期設定) / 2160p@30Hz / 1280x1024@60Hz / 2160p@24Hz / 1024x768@60Hz / 1080p@60Hz / 1360x768@60Hz / 1080p@50Hz / 1080i@60Hz / 1080i@50Hz / 1440x900@60Hz 720p@60Hz / 1680x1050@60Hz / 720p@50Hz
HDR	HDR 出力をオン/オフに設定します。 <sup>※5</sup>
Function	レシーバの動作モードを設定します。 Matri:マトリックスモード(初期設定値) Video Wall:ビデオウォール
LAN2 Mode	レシーバの通信モードを変更します。通信モードの詳細は本書 P8 <a href="#">IP250UHD-TX/RX と IP200UHD-TX/RX 混在マルチキャストシステム</a> を参照してください。(IP250UHD-RX のみ表示) <sup>※6</sup>
Actions	レシーバの詳細設定画面を開きます。設定詳細項目は下記の通りです。
	Name レシーバのデバイス名を設定します。 入力可能文字: 16 文字までの半角英数字
	Update ID(Advanced Users Only) レシーバのデバイス ID を設定します。初期設定では、レシーバに割り当てられている IP アドレスの下 3 桁と同じ数字に設定されます。

※5 HDR 設定を変更すると、新しい設定を適用するため、レシーバが自動的に再起動します。

※6 通信モードを変更すると、新しい設定を適用するため、レシーバが自動的に再起動します。

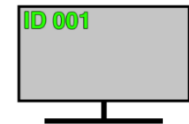
System Size	構築するマルチキャストのシステムサイズ(トランスミッタとレシーバの総台数)を設定します。 ‘0-75 Products’:75 台以下(75 台を含む、初期設定値) ‘75+Products’: 75 台を超える場合
HDMI Audio	レシーバの HDMI 出力する音声を設定します。(IP250UHD-RX のみ表示) HDMI In:トランスミッタから伝送される音声 Dante Audio In:レシーバに伝送される Dante オーディオ
Analogue Audio	レシーバのアナログ出力する音声を設定します。(IP250UHD-RX のみ表示) 設定項目 HDMI In:トランスミッタから伝送される音声 Dante Audio In:レシーバに伝送される Dante オーディオ
Dante Audio	レシーバの Dante オーディオ出力音声を設定します。(IP250UHD-RX のみ表示) HDMI In:トランスミッタから伝送される音声 Optical Audio In:レシーバの光デジタル入力端子の入力音声(2ch のみ)
HDCP Mode	レシーバの HDCP モードを設定します。 Bypass / HDCP2.2 / HDCP1.4(初期設定)
Fast Switching	瞬時切り替えモードを設定します。 ON: モードオン(映像が優先的に切り替わり、IR, RS-232, USB/KVM 信号は後に切り替わります。初期設定値) OFF: モードオフ
CEC Pass-through	レシーバの CEC パススルーを設定します。 ON: 有効、OFF:無効(初期設定値)
Video Output	レシーバから映像信号出力を設定します。ディスプレイのチェックに便利です。 ON: 有効(初期設定値)、OFF:無効
Video Mute	レシーバから出力される映像をミュートオン/オフに設定します。レシーバとディスプレイ接続を保持しながら、映像を非表示したい時に便利です。 ON: 黒画面を出力、OFF:正常の映像を出力(初期設定値)
Video Pause	レシーバから出力される映像をフリーズさせます。 ON: フリーズ、OFF:正常の映像を出力(初期設定値)
Video Auto On	レシーバからの映像出力自動モードを設定します。 ON: 有効(初期設定値)、OFF 無効
Front Panel Buttons	レシーバ前面パネルのボタン操作を設定します ON: 操作可能(初期設定値)、OFF:操作不可
Front Panel IR	レシーバ IR 送受信を設定します。 ON: 有効、OFF:無効(初期設定値)
Front Panel Display	レシーバ前面パネルのディスプレイ表示を設定します。 <sup>※7</sup> ON: 常時表示、OFF: 90 秒表示後自動オフ(初期設定値)
Front Panel Power LED	レシーバ前面パネルの LED インジケータの表示方法を設定します。 On: 常時表示、Off:常時オフ、 On 90 Seconds:90 秒表示後自動オフ(初期設定値)
On Screen Product ID	レシーバに接続されているディスプレイ上に表示する OSD を設定します。 On: 常時表示、Off:常時オフ、 On 90 Seconds:90 秒表示後自動オフ(初期設定値)
Rotation	レシーバからの出力映像を時計回り(0°/90°/180°/270°回転表示)に設

※7 IP250UHD-RX のディスプレイ素材は OLED であるため、常時点灯設定は推奨していません。

	定めます。初期設定値:0°
Stretch	レシーバ出力映像のアスペクト比率表示モードを設定します。 Fit It: ソース映像のアスペクト比率を維持します。 Stretch: レシーバに接続されているディスプレイのアスペクト比に合わせ、出力映像のアスペクト比を調整します。(初期設定値)
Serial Setting	レシーバのシリアル RS-232 通信のボーレート、データビット、パリティ、ストップビットの設定を行います。ゲスト通信モードはオフのままご利用ください。 初期設定値: ボーレート = 115200、Data Bits = 8 Bit、Parity = None、Stop Bits = 1 bit
Preview	レシーバのプレビュー画面(静止画)を表示します。
Reboot	レシーバを強制再起動します。
Replace(must be offline)	オフライン状態のレシーバを交換する際に使用します。
Remove	レシーバをプロジェクト(マルチキャストシステム)から削除します。(設定は保存されます。)
Factory Reset	レシーバすべての設定を出荷時設定にリセットします。(プロジェクト(マルチキャストシステム)からも削除されます。)



各レシーバがどのディスプレイに接続しているかがわからない時、OSD 表示機能が便利です。‘Project’ メニュータブ内 ‘Toggle OSD’ をクリックし、OSD 表示(レシーバの ID 番号)をオン/オフできます。



## トランスミッタの設定

ファームウェアのアップデートした後、ウェブ GUI の ‘Transmitters’ メニュータブで、トランスミッタのステータス情報の確認、EDID、動作モード変更を含む各種設定を行います。

ID	Name	IP Address	MAC Address	Dante MAC	Product	Firmware	Status	EDID	HDMI Audio	LAN2 Mode	Actions
1	Transmitter 001	169.254.3.1	34:D0:88:21:44:2C	00:1D:C1:84:82:62	IP250	A3.3	Online	4K2K 4:4:4, 2CH	HDMI In	MODE 0	Actions
2	Transmitter 002	169.254.3.2	34:D0:88:21:2C:2E		IP200	A1.7.4	Offline	Default EDID	HDMI		Actions

‘Transmitters’ メニュータブ

項目	説明
ID	シリアル(RS-232)通信で制御する際、この ID 番号を使用します。
Name	トランスミッタのデバイス名を表示します。‘Actions’ 設定メニューで変更可能です。
IP Address	トランスミッタの IP アドレスを表示します。
MAC Address	トランスミッタの MAC アドレス(AVoIP)を表示します。
Dante MAC	トランスミッタの IP アドレス(Dante)を表示します。(IP250UHD-TX のみ表示)
Product ID	トランスミッタの型番を表示します。
Firmware	トランスミッタのファームウェアバージョンを表示します。
Status	トランスミッタのオンライン/オフラインステータスを表示します。‘Offline’ (オフライン)が表示された場合は、該当トランスミッタのネットワークスイッチへの接続や電源を確認してください。
EDID	トランスミッタに内蔵されている EDID エミュレータプリセットを設定します。プリセットの選択項目は下記の通りです。

	Default EDID / 1080i@60Hz 2ch / 4K2K 4:2:0 2ch / 1080i@60Hz 5.1ch / 4K2K 4:2:0 5.1ch / 1080i@60Hz 7.1ch / 4K2K 4:2:0 7.1ch / 1080p@60Hz 2ch / 4K2K 4:4:4 2ch / 1080p@60Hz 5.1ch / 4K2K 4:4:4 5.1ch / 1080p@60Hz 7.1ch / 4K2K 4:4:4 7.1ch / 1080p@60Hz 3D 2ch / DVI 1280 x 1024@60Hz (音声なし) / 1080p@60Hz / 3D 5.1ch / DVI 1920 x 1080@60Hz (音声なし) / 1080p@60Hz / 3D 7.1ch / DVI 1920 x 1200@60Hz (音声なし)
HDMI Audio	送信する映像にエンベデッドする音声を選択します。 HDMI In:HDMI 入力音声(初期設定値) Dante Audio In: Dante オーディオ入力音声 Analogue Audio In: アナログ入力音声
LAN2 Mode	トランスミッタの通信モードを変更します。通信モードの詳細は本書 P8 IP250UHD-TX/RX と IP200UHD-TX/RX 混在マルチキャストシステム を参照してください。(IP250UHD-RX のみ表示) <sup>※8</sup>
Actions	トランスミッタの詳細設定画面を開きます。設定詳細項目は下記の通りです。
Name	トランスミッタのデバイス名を設定します。 入力可能文字: 16 文字までの半角英数字
Update ID(Advanced Users Only)	トランスミッタのデバイス ID を設定します。初期設定では、トランスミッタに割り当てられている IP アドレスの下 3 桁と同じ数字に設定されます。
System Size	構築するマルチキャストのシステムサイズ(トランスミッタとレシーバの総台数)を設定します。 '0-75 Products': 75 台以下(75 台を含む、初期設定値) '75+Products': 75 台を超える場合
HDMI Audio	送信する映像にエンベデッドする音声を選択します。 HDMI In:HDMI 入力音声(初期設定値) Dante Audio In: Dante オーディオ入力音声 Analogue Audio In: アナログ入力音声
Analogue Audio	アナログ音声出力端子から出力される音声を設定します。 HDMI In:HDMI 入力音声(初期設定値) Dante Audio In: Dante オーディオ入力音声
Dante Audio	Dante オーディオに送信する音声を設定します。 Dante Audio In: Dante オーディオ入力音声 Analogue Audio In: アナログ入力音声
DHCP Mode	トランスミッタの DHCP モードを設定します。 Bypass / DHCP2.2 / DHCP1.4(初期設定)
CEC Pass-through	トランスミッタの CEC パススルーを設定します。 ON: 有効、OFF:無効(初期設定値)
Front Panel Display	トランスミッタ前面パネルのディスプレイ表示を設定します。 <sup>※9</sup> ON: 常時表示、OFF: 90 秒表示後自動オフ(初期設定値)
Front Panel Power LED	トランスミッタ前面パネルの LED インジケータの表示方法を設定します。 On: 常時表示、Off:常時オフ、 On 90 Seconds:90 秒表示後自動オフ(初期設定値)
Serial Setting	トランスミッタ RS-232 通信のボーレート、データビット、パリティ、ストップビットの設定を行います。ゲスト通信モードはオフのままご利用ください。 初期設定値:ボーレート=115200、Data Bits=8Bit、Parity=None、Stop Bits=1 bit
Preview	トランスミッタのプレビュー画面(静止画)を表示します。
Reboot	トランスミッタを強制再起動します。

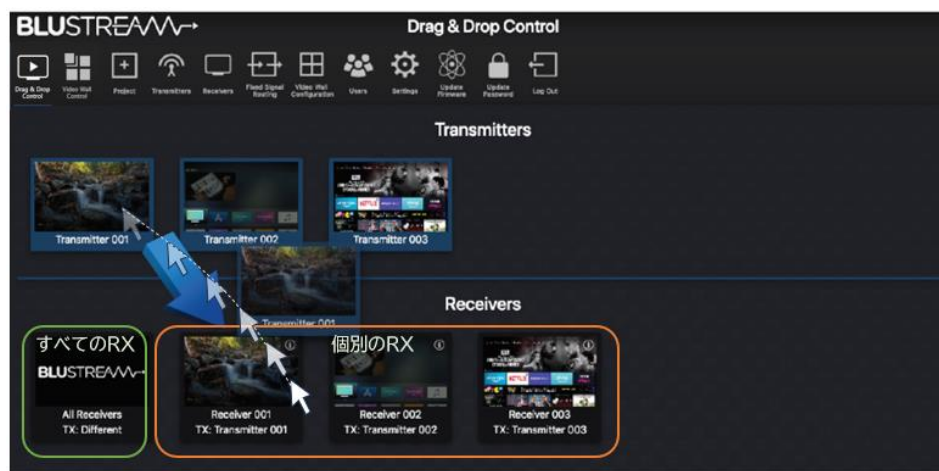
※8 通信モードを変更すると、新しい設定を適用するため、レシーバが自動的に再起動します。

※9 IP250UHD-TX のディスプレイ素材は OLED であるため、常時点灯設定は推奨しておりません。

Replace (must be offline)	オフライン状態のトランスミッタを交換する際に使用します。
Remove	トランスミッタをプロジェクト(マルチキャストシステム)から削除します。(設定は保存されます。)
Factory Reset	トランスミッタすべての設定を出荷時設定にリセットします。(プロジェクト(マルチキャストシステム)からも削除されます。)

## 映像の切り替え

ウェブ GUI の ‘Drag & Drop Control’ メニュータブで、直感的に素早くレシーバに伝送したいソース(トランスミッタ)を個別または、一斉割り当てすることができます。トランスミッタがソース機器から受信している映像とレシーバが受信している映像のサムネイル画像が表示されます。このサムネイル画像は数秒ごとに自動更新されます。



‘Drag & Drop Control’メニュータブ

ご利用になられる PC、スマートフォン、タブレットによっては 1 画面に表示されるトランスミッタとレシーバの台数は異なります。左右方向にスクロールまたはスワイプして接続された端末をご確認ください。

### 操作方法

放映(伝送)したいソース(トランスミッタ)を選択し、クリックしたまま、割り当てするレシーバ上に引っ張ってください。レシーバの表示がサムネイル画像切り替わります。

Drag & Drop コントロールにて割り当てできるのはソース(トランスミッタ)の映像及び、音声のみとなります。他のコントロール信号などの割り当ては「Fixed Signal Routing」メニューで行います。

各トランスミッタ画面に ‘No Signal(信号無し)’ が表示された場合、該当するトランスミッタに映像が入力されているか、または、トランスミッタの EDID 設定が正しいかご確認ください。(IP200UHD-TX は4K60 4:4:4 信号に対応していません)。各レシーバ画面に ‘No Signal(信号無し)’ と表示される場合、該当するレシーバはネットワークスイッチへ正しく接続され電源が供給されていることを確認してください。

すべてのレシーバで同じソースを一斉割り当てしたい場合は、画面左下にある ‘All Receivers’ 画面へ放映したいソース(トランスミッタ)をドロップしてください。

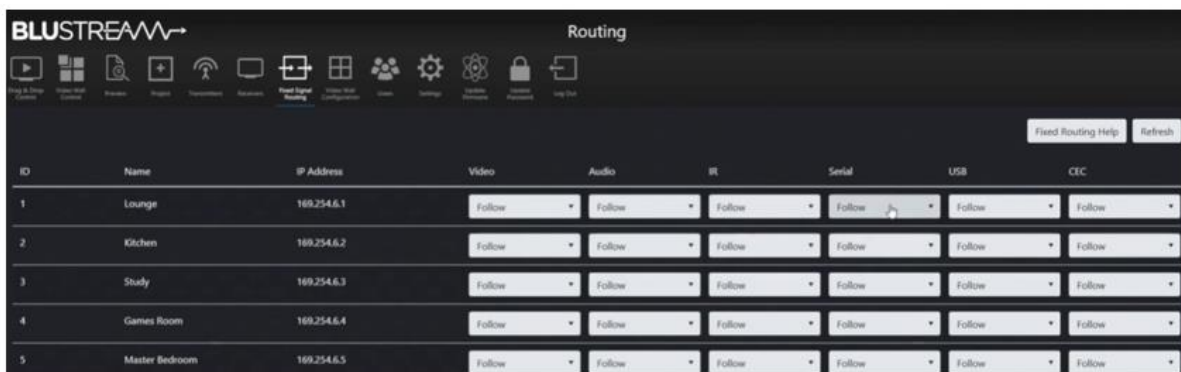
各レシーバに割り当てられたソースは、各レシーバ画面下に ‘TX: Transmitter xxx’ と表示されます。マルチキャストシステム内の各レシーバが異なるソースを受信している場合は ‘All Receivers’ 画面下に ‘TX: Different’ と表示されます。

### ご注意

Drag & Drop コントロール画面は、詳細設定画面にアクセスする権限の無いゲストユーザやアクセス制限されたユーザもアクセスが可能です。アクセス制限されたユーザアカウントでログインするとアクセスが許可されたトランスミッタ及び、レシーバのみが表示されます。ユーザー設定と権限については、本書 P.29 [ログインアカウント設定](#)を参照してください。ビデオウォールモードに設定されたレシーバは、「Drag & Drop Control」画面には表示されません。

## 固定信号ルーティング

ウェブ GUI の 'Fixed Signal Routing' メニュータブで、ソース(トランスミッタ)から伝送される下記の信号を特定のレシーバに固定ルーティングすることができます。



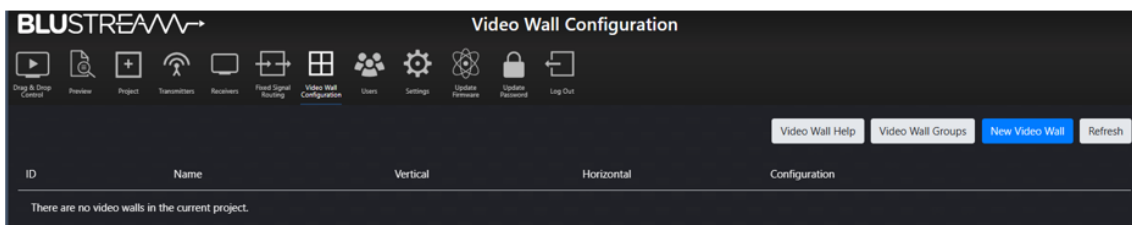
ID	Name	IP Address	Video	Audio	RT	Serial	USB	CEC
1	Lounge	169.254.6.1	Follow	Follow	Follow	Follow	Follow	Follow
2	Kitchen	169.254.6.2	Follow	Follow	Follow	Follow	Follow	Follow
3	Study	169.254.6.3	Follow	Follow	Follow	Follow	Follow	Follow
4	Games Room	169.254.6.4	Follow	Follow	Follow	Follow	Follow	Follow
5	Master Bedroom	169.254.6.5	Follow	Follow	Follow	Follow	Follow	Follow

'Fixed Signal Routing' メニュータブ

固定信号ルーティング設定を行うと、各信号はマルチキャストシステム上で固定され、ビデオスイッチングの影響を受けなくなります。サードパーティコントロールシステムからの制御信号を特定の機器へ固定送受信する場合に有効です

## ビデオウォールの設定

ウェブ GUI の 'Video Wall Configuration' メニュータブで、ビデオウォール設定の新規作成、変更、ビデオウォール配列へのレシーバの割り当て、グループ分け、ベゼル設定などを行います。レシーバは、ビデオウォール配列の一部としてセットアップしてマルチキャストシステムでは、さまざまな形状やサイズのビデオウォール配列を 1x2 から 9x9 までの範囲で組み込むことが可能です。

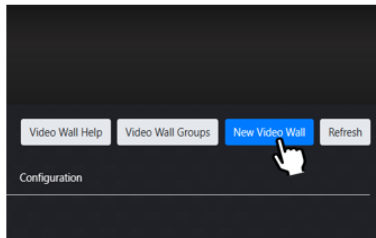


'Video Wall Configuration' メニュータブ

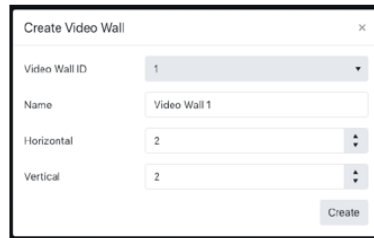
## ビデオウォールの新規作成・削除

### ビデオウォールの作成手順

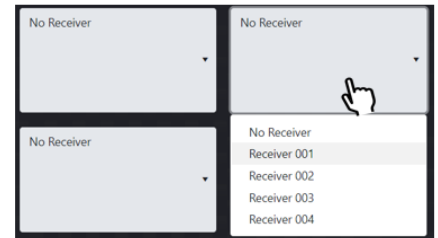
- ‘New Video Wall’ をクリックします。
- ビデオウォールの ID、名前、パネルの構成台数(水平(Horizontal)、垂直(Vertical)方向)を決めた後、‘Create’ をクリックします。
- ビデオウォールの各部分にレシーバを割り当てます。



New Video Wall



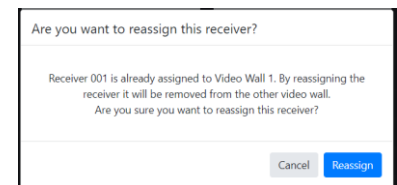
ビデオウォール構成



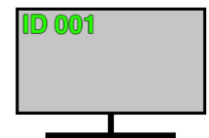
レシーバの割り当て



すでに別のビデオウォールに割り当てているレシーバを選択すると右のメッセージが表示されます。割り当て直すには ‘Reassign’ をクリックしてください。

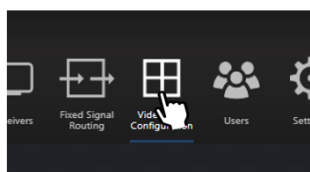


‘Toggle OSD’ をクリックすると、各パネルに接続しているレシーバの ID 番号が表示されます。レシーバの ID 番号の変更は該当するレシーバの ‘Actions’ メニューで行うことができます。詳細は本書 P.17 [レシーバの設定](#) を参照してください。

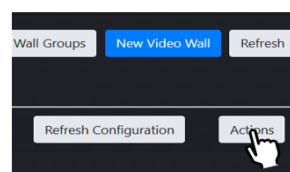


### ビデオウォールの削除手順

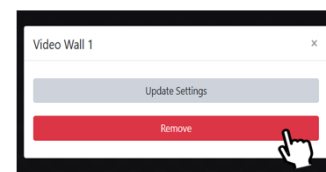
- ‘Video Wall Setting’ メニュータブをクリックします。
- 削除したいビデオウォール右側にある ‘Actions’ をクリックします。
- ‘Remove’ をクリックし、削除します。



Video Wall Setting



Actions



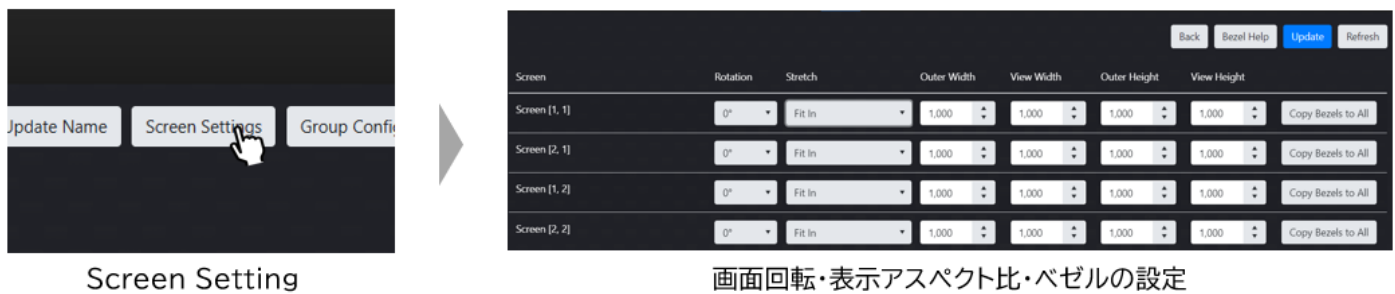
Remove

### ご注意

削除されたビデオウォールは復元できませんのでご注意ください。

## 画面回転・表示アスペクト比・ベゼルの設定

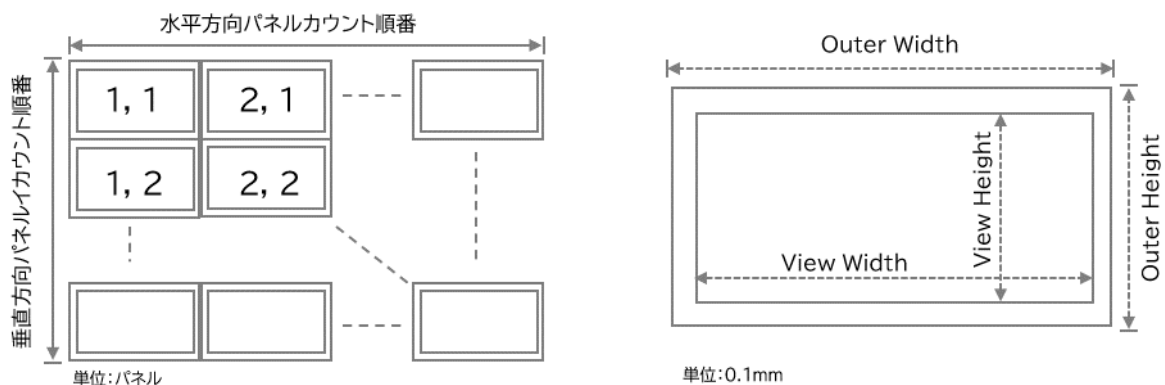
ビデオウォールの各部分にレシーバを割り当て後、‘Screen Setting’項目でレシーバの画面回転・表示アスペクト比・ベゼルを設定できます。



Screen Setting

画面回転・表示アスペクト比・ベゼルの設定

設定項目	説明
Screen	パネルの位置情報を表示します。
Rotation	レシーバ出力映像を回転(時計回り0°/90°/180°/270°)します。
Stretch	レシーバ出力映像のアスペクト比を設定します。 Fit It: ソース映像のアスペクト比率を維持します。 Stretch: レシーバに接続されているディスプレイのアスペクト比に合わせ、出力映像のアスペクト比を調整します。
Outer Width	パネル外枠の横幅比率を調整します。
View Width	パネル内枠の横幅比率を調整します。
Outer Height	パネル外枠の縦幅比率を調整します。
View Height	パネル内枠の縦幅比率を調整します。
Copy Bezels to All	該当ベゼル設定を他のベゼル設定にコピーします。



## ビデオウォールのグループ分け

ビデオウォールの新規作成、パネルへのレシーバ割り当て及び、ベゼル設定後、‘Group Configuration’機能でパネル(レシーバ)のグループ分け、プリセットを作成できます。

## グループ分け手順



Group Configuration

各パネルのグループ分け

A~Jまで最大10グループ

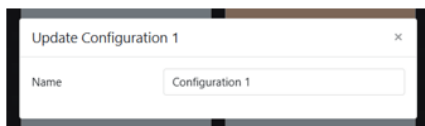
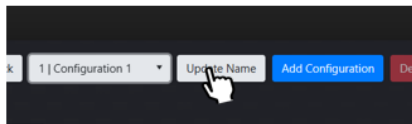


## グループ分け例

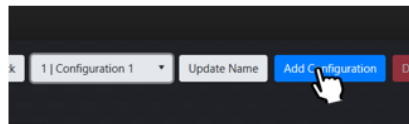


‘Single’ のレシーバはビデオウォールに属さず、システムにマトリックスモードのレシーバとして認識され、出力映像の切り替えは ‘Drag & Drop Control’ メニュータブで行います。

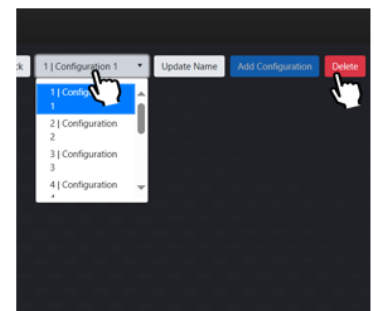
## グループ名変更及びグループ分け新設・削除の方法



グループ名変更(最大16半角英数文字)



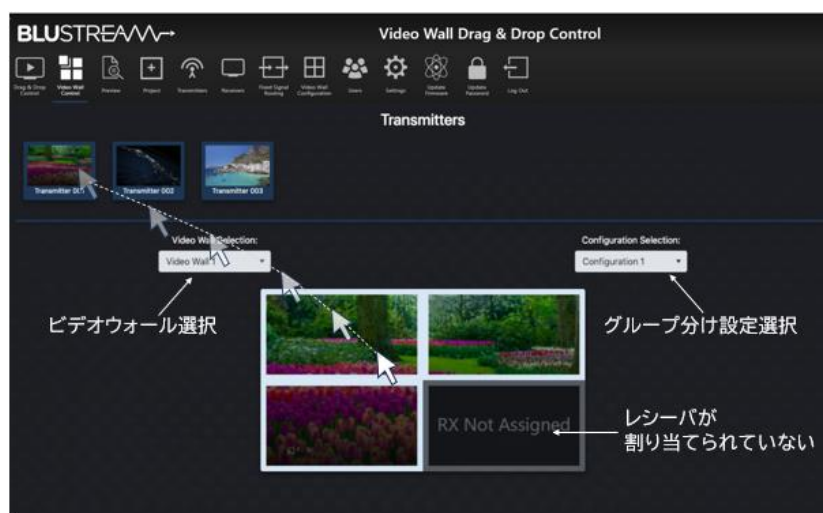
グループ分け新設(最大9つまで)



グループ分け設定削除

## ビデオウォールコントロール(ビデオウォール表示の切り替え)

ウェブ GUI の ‘Video Wall Control’ メニュータブで、ビデオウォール毎にサムネイル表示画面が提供されます。これらの画面はマルチキャストシステムにてビデオウォール設定がされた場合にのみ表示が可能です。



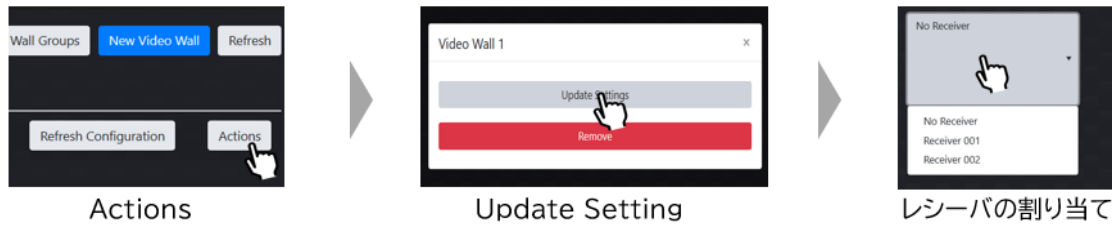
Video Wall Control

## ビデオウォール配列に表示へのソース割り当て操作手順

- ビデオウォールを選択します。
- グループ分け設定を選択します。
- ソース(トランスミッタ)のプレビュー画面をクリックしたまま、ビデオウォールの配列に引っ張ってください。ビデオウォール表示は最新のサムネ画像に切り替わります。



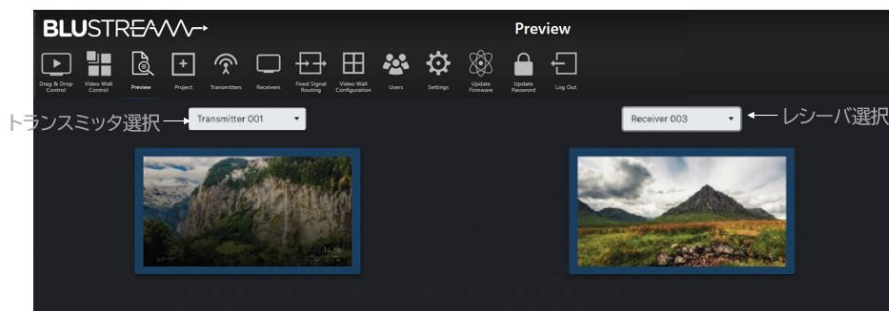
‘RX Not Assigned’ と表示されている状態は、ビデオウォールの配列にはレシーバが割り当てられていないことを意味します。‘Video Wall Configuration’ メニュータブでレシーバの割り当てを行うことができます。



Blustream マルチキャストシステム内のビデオウォール配列を制御するための API コマンドについては、本書 P.39 [ビデオウォールのコントロールコマンド](#) をご参照ください。

## プレビュー(トランスミッタとレシーバのサムネイル画像を確認)

ウェブ GUI の ‘Preview’ メニュータブで、トランスミッタとレシーバのサムネイル画像を確認できます。‘Drag & Drop Control’ メニュータブが表示しきれない各端末のコンテンツ受信状況を確認する上で役立ちます。



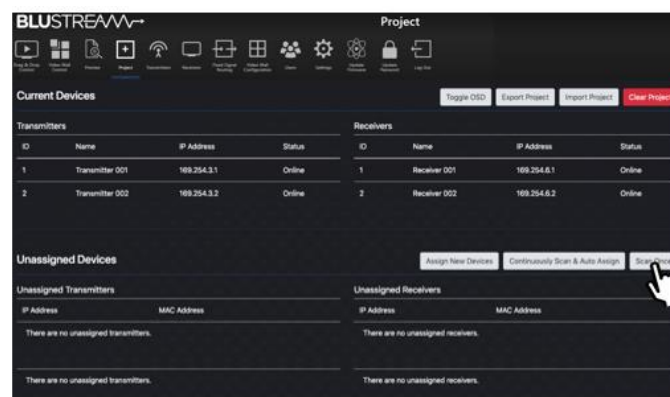
Preview



各デバイスのサムネイル画像は数秒ごとに自動更新されます。

## デバイスの新規追加

マルチキャストシステムにデバイスを新規追加はウェブ GUI ‘Project’ タブメニューで行います。



Project

## 操作方法

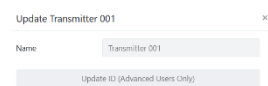
- 1 台のデバイスのみ追加する場合は 'Scan Once' をクリックしてください。検知した新しいデバイスに利用可能な ID と IP アドレスを小さい順に自動で割り当てます。  
デバイスを検知されていない場合は「There were no new device found」というメッセージが表示されます。
- 'Continuously Scan & Auto Assign': ネットワークを継続的にスキャンし、接続された新しいマルチキャストデバイスを、次に利用可能な ID と IP アドレスに自動で割り当てます。  
ACM200 は、新しいマルチキャストデバイスが見つかるまでネットワークをスキャンし続けますが、ボタンを再度クリックするとスキャンを停止します。
- Auto Assign': 事前に割り当て開始する ID を指定し、ネットワークを継続的にスキャンし、接続された新しいマルチキャストデバイスを、指定した ID と IP アドレスから小さい順に自動で割り当てます。  
ACM200 は、新しいマルチキャストデバイスが見つかるまでネットワークをスキャンし続けますが、'x' ボタンを再度クリックするとスキャンを停止します。



各デバイスの付属ステッカーに IP アドレス、デバイス名などの情報を記入し、デバイス本体に貼り付けることで、デバイスをより管理しやすくなります。



トランスミッタ、レシーバに割り当てた ID を変更したい場合は、'Transmitters'、'Receivers' メニュータブから、該当するデバイスの 'Actions' メニューで ID の変更を行うことができます。



## デバイスの交換

不具合が生じたデバイスの交換する場合、マルチキャストシステムの再構築することなく、指定するデバイスのみを交換することができます。

### 操作手順

- 不具合が生じたデバイスをネットワークから外し、新しいデバイス(出荷時設定)をネットワークに接続します。
- ウェブ GUI の 'Transmitters' / 'Receivers' タブメニューで該当するデバイスの 'Actions' メニューから、'Replace(must be offline)' をクリックします。デバイスの再設定が自動的に行います。



### 重要

デバイスの再設定中に、電源を落としたり、ACM200 のウェブ GUI ページを更新したりしないでください。デバイスが故障する場合があります。  
デバイスの再設定が完了すると、デバイスが自動的に再起動します。

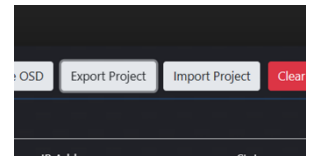
## マルチキャストシステムの再構築

ウェブ GUI の ‘Project’ メニュータブで、マルチキャストシステムの再構築を行うことができます。



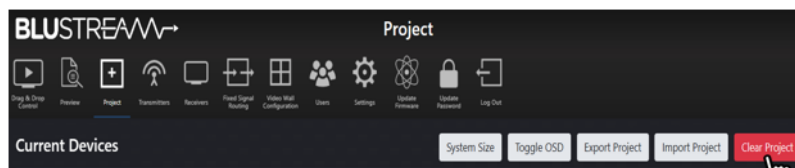
マルチキャストシステムの再構築を行う前に、現在のマルチキャストシステムの設定ファイルをプロジェクトファイルとして ‘Export Project’ から保存が可能です。(保存ファイル名:「config\_file.json」)

設定保存していた再度利用するには、プロジェクトの ‘Import Project’ から設定ファイルを読み込ませてください(ファイル拡張子:\*.json)。



### マルチキャストシステムの再構築操作手順

- ウェブ GUI の ‘Project’ メニュータブ内 ‘Clear Project’ をクリックし、マルチキャストシステムの設定を削除します。

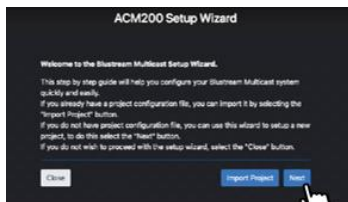


‘Clear Project’

### 重要

事前に ‘Export Project’ で設定ファイルを保存せず、マルチキャストシステム(プロジェクト)を削除した場合、システムの復元はできないのでご注意ください。

- ‘ACM200’ Setup Wizard’ 表示画面で ‘Next’ をクリックします。
- ACM200 をネットワークに接続していることを確認し、‘ACM200 Connections’ 表示画面で ‘Next’ をクリックし、システムサイズを指定します。



セットアップウィザード

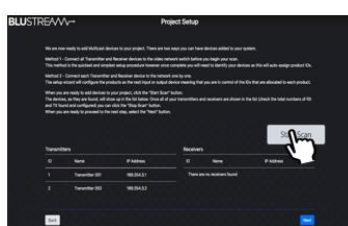


ACM200の接続確認



システムサイズ設定

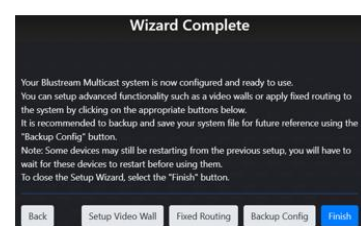
- ‘Start’ Scan をクリックし、デバイスのスキャンが自動的に始まります。すべてのデバイスをスキャンした後、‘Next’ をクリックし、EDID、スケーラ設定画面に進みます。
- 各デバイスの名前(半角 16 文字まで英数符号)、EDID(トランスミッタ)、スケーラ(レシーバ)を適切に設定した後、‘Next’ をクリックします。
- ‘Finish’ をクリックすると、マルチキャストシステムの構築が完了となります。ほか、ビデオウォール(Setup Video Wall)、固定信号ルーティング(Fixed Routing)を行う場合は各ボタンを押すと、セットメニューに進みます。



デバイスのスキャン



各デバイス名、EDID及びスケーラの設定



システム構築完了



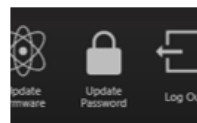
デバイス設定画面で‘Turn OSD On’ ボタンでディスプレイに接続しているレシーバ ID 番号の表示、トランスミッタの‘View’ ボタンでトランスミッタのサムネイル画像(3~5 秒更新)を表示させることができます。



## ログインアカウント設定

### 管理者用ログインパスワードの変更

ウェブ GUI の‘Update Password’メニュータブで管理者用ログインパスワードを変更できます。新しいパスワード(半角 16 文字まで英数符号)を 2 回入力(確認を含め)して‘Update Password’を選択すると、新しいパスワードに更新されます。



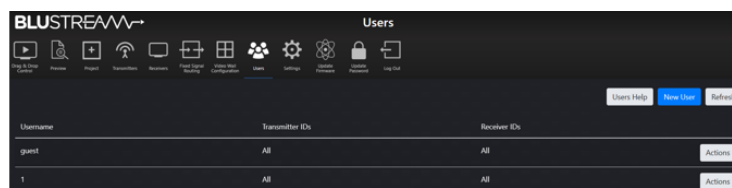
管理者用ログインパスワード変更

### 重要

パスワードの復元はできません。管理者パスワードを忘れたり、紛失したりした場合は、ACM200 をファクトリーリセット(工場出荷状態にリセット)してください。  
ログイン ID(admin)は変更できません。

### ユーザーアカウントの新規作成

ウェブ GUI ‘Admin’ タブメニューでゲストの権限管理、ユーザーアカウントの新規作成、ログイン名とパスワードの変更、各デバイスのアクセス権限を割り当てることができます。



‘User’メニュータブ

ウェブGUIのログインアカウントは下記 3 種類があります。

アカウント種類	アクセス権限を割り当て可能な機能		
	ログインアカウントの管理 (作成、権限管理、削除)	映像の切り替え	他メニュータブへのアクセス
管理者(Admin)	○	○	○
ゲスト(Guest)	X	○	X
ユーザー(User)	X	○	X

### ユーザーアカウントの新規作成方法

- ‘New User’ をクリックします。
- ログインユーザー名(半角 16 文字までの英数)、パスワード(半角 4~16 文字までの英数)を入力し、‘Create’ をクリックします。作成したユーザー名はリストに表示されます。



## ユーザーアカウントのログインパスワードの変更、権限の管理、アカウントの削除方法

- 該当するユーザーアカウントの 'Actions' ボタンをクリックし、設定項目を選択します。



- ログインパスワードの変更<sup>※10</sup>(半角 16 文字までの英数)、権限の変更(各デバイスへのアクセス権限)、アカウントの削除<sup>※11</sup>を行います。



### ご注意

ユーザーがビデオウォールのスイッチングコントロールを行うためには、関連するすべてのレシーバへのアクセス権限が必要となります。関連するレシーバ全てへのアクセス権限が付与されていない場合、該当ビデオウォールはビデオウォールコントロールページに表示されません。

## ACM200 本体設定

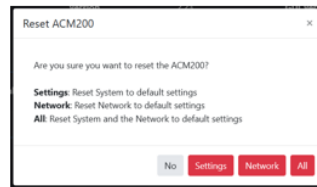
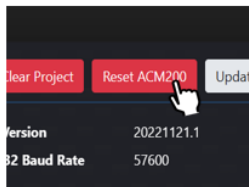
ウェブ GUI の 'Setting' タブメニューで ACM200 設定のリセット、ファームウェアバージョンの確認・アップデート、IR制御のオン/オフ設定、Telnet通信ポートの確認・設定、シリアル(RS-232)通信ボーレートの確認・設定を行うことができます。



※10 ゲスト(Guest)アカウントのログイン名称及びパスワードは変更できません。

※11 削除したログインアカウントは復元できませんので、ご注意ください。

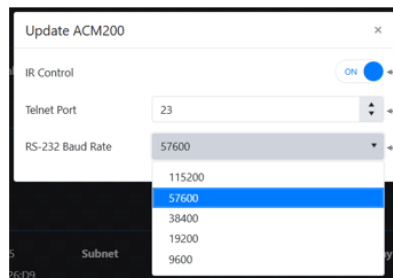
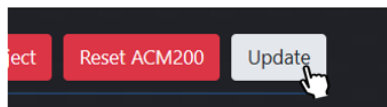
## ACM200 設定のリセット



- 'Setting' : ネットワーク設定以外の設定をリセット
- 'Network' : ネットワーク設定のみリセット
- 'All' : ネットワーク設定を含むすべての設定をリセット

ログインパスワードの変更

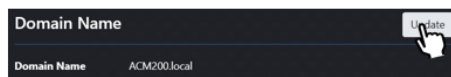
## IR 制御のオン/オフ設定、Telnet 通信ポートの確認・設定、シリアル(RS-232)通信ボーレートの確認・設定



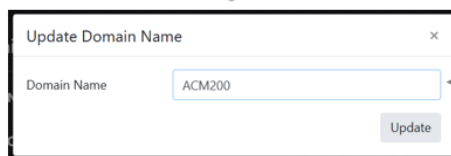
- IR制御のオン/オフ設定
- Telnet通信ポートの設定
- シリアル(RS-232)通信ボーレートの設定

'General Setting'

## ドメインの変更



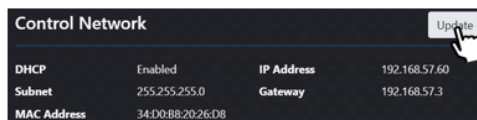
**ご注意**  
ドメインアクセス機能を利用する場合は設置環境のネットワーク管理者に設定値をご確認ください。



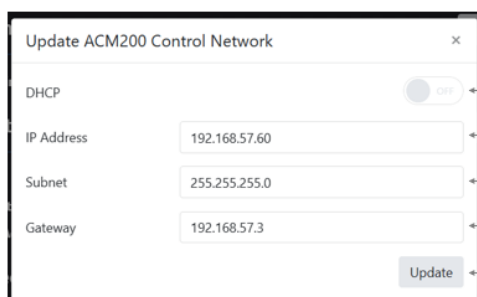
ドメイン **ACM200.local** の \_\_\_\_\_ 部分を変更できます  
半角32文字までの英数を入力してください

ドメインの変更

## Control Network 設定の変更



**ご注意**  
DHCPサーバーからIPアドレスが割り当てられた状態でDHCPをオフに設定すると、割り当てられていたIPアドレスがそのまま引き継がれます。(初期設定値である192.168.0.225には戻りません)



- DHCP機能のオン/オフ設定
- IPアドレス入力欄
- サブネットマスク入力欄
- ゲートウェイアドレス入力欄
- 更新

'Control Network' 設定変更

# シリアル(RS-232)通信及び Telnet コマンドで制御する

Blustream マルチキャストシステムは、シリアル通信及び、TCP/IP 通信経由で制御が可能です。

## シリアル(RS-232)通信設定値

シリアル(RS-232)通信コマンドで制御します。

制御コマンドの一覧は本書 P.33 [シリアル\(RS-232\)通信及び Telnet コマンド](#) をご参照ください。  
初期値は下記の通りです。

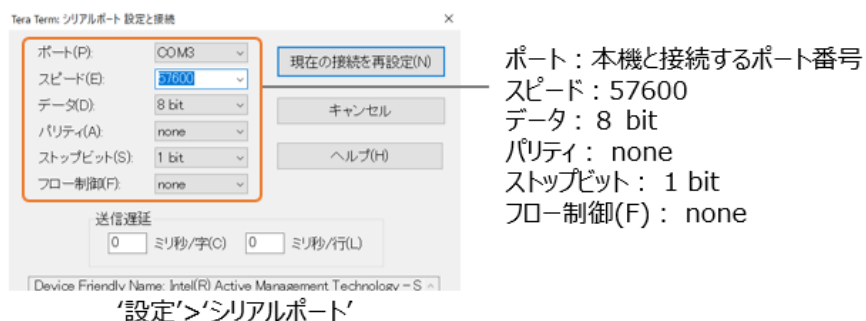
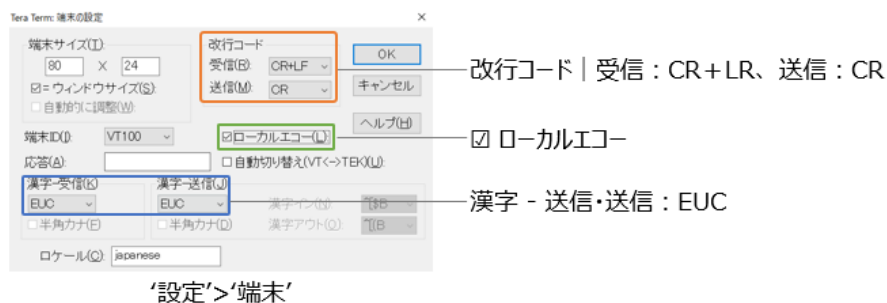
項目	設定値
ボーレート	57600
データビット	8 ビット
パリティ	なし(None)
ストップビット	1 ビット
フローコントロール	なし(None)

## Telnet 通信ポート

Telnet 通信ポート	23(初期設定値) <sup>※12</sup>
--------------	--------------------------

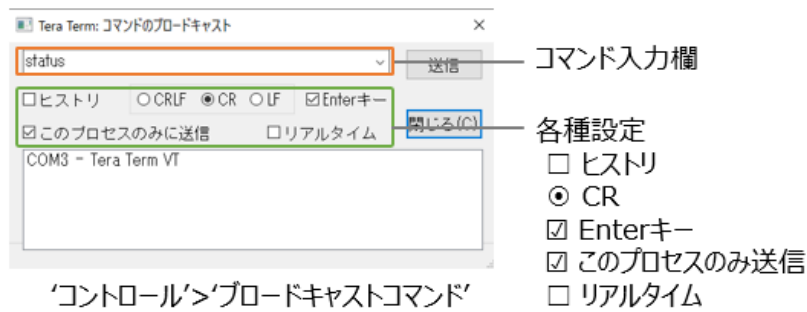
## ターミナルエミュレータソフトウェア設定例(Tera Term)

ターミナルエミュレータ「Tera Term」を利用する場合は、以下の設定を行い、コマンド送信してください。



※12 Telnet 通信ポートはマトリックススイッチャーのウェブ GUI にて変更できます。詳細は [ネットワークの設定](#) を参照してください。





コマンド入力欄

各種設定

 ヒストリ CR Enterキー このプロセスのみ送信 リアルタイム

「コントロール」&gt;「ブロードキャストコマンド」

## シリアル(RS-232)通信及び Telnet コマンド

マトリックススイッチャーは、シリアル通信及び、TCP/IP 通信経由で制御が可能です。利用可能なすべてのシリアル(RS-232)通信コマンドを以下のページに記します。

### 良くある失敗例

キャリッジリターン – ご利用になられるターミナルソフトウェアによっては、キャリッジリターン(改行)設定が必要な場合があります。一部のターミナルソフトウェアでは、トークン<CR>を使用してキャリッジリターンを実行するなど、ご利用になられるソフトウェアによって仕様が異なります。

- ・スペース(空白) – マトリックススイッチャーはスペース(空白)を認識せず動作します。  
例: ‘1’ は ‘01’ は同じとみなします。
  - 文字列のフォーマット: ‘OUT01FR02’
  - サードパーティ制御システムのコマンド例: ‘OUT{スペース(空白)}01{スペース(空白)}FR02’
- ・ボーレートまたはその他のシリアル(RS-232)通信プロトコルの設定間違い
- ・ボーレートまたはその他のシリアル通信プロトコルの設定間違い

### 重要

ACM200 上でのデータ破損を完全に防止するには、ACM200 からの戻り値 [SUCCESS] が表示されてから次のコマンド送信を行うことが最適となります。サードパーティコントローラからのコマンド送信の遅延設定、または戻り値 [SUCCESS] 検出後にコマンド送信される設定を行っていただけますようお願いいたします。

また、サードパーティコントローラからコマンド送信を行う際、設定した遅延時間通りに ACM200 にてコマンド受信できているかの監視を行う場合は、ACM200 Control LAN ポートと PC を接続(ポート番号:23)し Telnet 経由にて行うことが可能です。

トランスミッタ(iii)及びレシーバ(ooo)の最大台数はともに 762 台です。

- レシーバ(出力) = ooo      - トランスミッタ (入力) = yyy または iii
- スケール出力 = rr          - EDID 入力設定 = zz
- ボーレート = br

ACM200 の API コマンドのリストは、「ACM200 アドバンスドコントロールモジュール API コマンド」からもご確認いただけます。

## システムインフォメーションコマンド

項目	送信コマンド	応答
コマンド一覧を取得する	?	コマンド‘?’、‘HELP’の応答例を参照してください
コマンド一覧を取得する	HELP	
システムステータス情報を取得する	STATUS	コマンド‘STATUS’の応答例を参照してください
レシーバ ooo のステータス情報を取得する	OUT [ooo] STATUS	ooo=[レシーバの ID 番号] コマンド‘OUToooSTATUS’の応答例を参照してください
トランスミッタ yyy のステータス情報を取得する	IN [ooo] STATUS	yyy=[トランスミッタの ID 番号] コマンド‘INoooSTATUS’の応答例を参照してください
ビデオウォール idx のステータス情報を取得する	VW [idx] STATUS	idx=[ビデオウォールの Index 番号] コマンド‘VW [idx] STATUS’の応答例を参照してください

```

=====
ACM200 Advanced Control Module Help
FW Version: 2.23

Note: Parameters In Brackets [ ] Are Optional
===== System Information Commands
? : Print Help Information
HELP : Print Help Information
STATUS : Print System Status And Port Status
===== System Control Commands
IR ON/OFF : Set ACM200 IR Control On Or Off
PREVIEW IMAGE ON/OFF : Set ACM200 Preview Image On Or Off
RSB x : Set RS232 Baud Rate to X bps
        x=[0:115200 1:57600, 2:38400, 3:19200, 4:9600]
RESET : Reset ACM200 System To Default Settings, Excluding Network Settings
RESET NB : Reset ACM200 Network To Default Settings
RESET ALL : Reset ACM200 System And Network To Default Settings
           (Type "Yes" To Confirm Reset, "No" To Discard)
===== Input And Output Port Control Commands

```

## コマンド‘?’、‘HELP’の応答例(一部)

```

=====
IP Control Box ACM200 Status Info
FW Version: 2.23

Power  IR      Baud      DomainName
On     On       57600     ACM200.local

In     EDID  IP      NET/Sig  MODEL  AUD_HDMI  AUD_ANA  AUD_DANTE
001   DF015 169.254.003.001 On /Off  IP250  HDMI      HDMI      HDMI

Out    FromIn IP      NET/HDMI Res  Mode  MODEL  AUD_HDMI  AUD_ANA  AUD_DANTE

```

## コマンド‘STATUS’の応答例

```

=====
IP Control Box ACM200 Output Info
FW Version: 2.23

Out  Net  HPD  Ver  Mode  Res  Rotate  Name
001  On   Off  A7.4.1  MX   00   0       Receiver 001
    >>Fast Fr  Vid/Aud/IR_/Ser/USB/GEC  HDR  MCast
    On   000  000/000/000/000/000/000  On   On
    >>CEC  HTTPS VLAN  DBG  Stretch IR  BTN  LED  SGen/Br/Bit  HDCP  Off
>>Video Mute Pause Auto IM  MAC
    On   Off  Off  On   Static 34:D0:B8:21:30:27
    >>IP
    169.254.006.001 169.254.006.001 255.255.000.000
    >>MODEL DANTE_MAC
    IP200
    >>AUD_HDMI AUD_ANA AUD_DANTE
    transmitter
=====

```

## コマンド‘OUToooSTATUS’の応答例

```

=====
IP Control Box ACM200 Input Info
FW Version: 2.23

In   Net   Sig   Ver   EDID   MCast   Name
001  On    Off  A7.4.1 DF015  On      Transmitter 001
>>CEC  HTTPS VLAN  LED  SGen/Br/Bit  HDCP
   Off  Off  0    3    Off /9/8n1  V1.4
>>IM   MAC
   Static 34:D0:B8:21:2C:2E
>>IP   GW      SM
   169.254.003.001 169.254.003.001 255.255.000.000
>>MODEL DANTE_MAC
   IP200
>>AUD_HDMI  AUD_ANA  AUD_DANTE
   ANA
=====

```

コマンド 'INoooSTATUS' の応答例

```

=====
IP Control Box ACM200 Video Wall Info
FW Version: 2.23

Row   CfgSel  Name
02    01     Video Wall 1

---
Name
Configuration 1
Group FromIn Screen
A      000    H01V01 H02V01 H01V02 H02V02
=====

```

コマンド 'VW [idx] STATUS' の応答例

## システムコントロールコマンド

項目	送信コマンド	応答	パラメータ
ACM200 の IR 制御をオン/オフに設定する	IR ON/OFF	[SUCCESS]Set IR on/off	ON=有効 OFF=無効
ACM200 のプレビュー(サムネイル画像)機能をオン/オフに設定する	PREVIEW IMAGE ON /OFF	[SUCCESS]Set Preview Image on/off.	ON=有効 OFF=無効
ACM200 のシリアル(RS-232)通信ボーレートを設定する	RSB x	[SUCCESS]Set RS232 Baud Rate to [x]bps.	x=[0:115200 1:57600 2:38400 3:19200 4:9600]]
ネットワーク設定以外の設定をリセットする	RESET	Sure to RESET system to default settings? Type "Yes" after next prompt to confirm...	Yes=実行 No=キャンセル
ネットワーク設定のみをリセットする	RESET NB	Sure to RESET network config to default settings? Type "Yes" after next prompt to confirm...	
ネットワーク設定を含むすべての設定をリセットする	RESET ALL	Sure to RESET system and network to default settings? Type "Yes" after next prompt to confirm...	

## レシーバのコントロールコマンド

項目	送信コマンド	応答	パラメータ
レシーバ 000 の出力をオン/オフに設定する	OUT 000 ON/OFF	[SUCCESS]Set output 000 On/Off .	000=[レシーバの ID 番号] ON=有効 OFF=無効
レシーバ 000 にトランスミッタ yyy のすべての信号を割り当てる	OUT 000 FR [yyy]y	[SUCCESS]Set output 000 from input yyy.	000=[レシーバの ID 番号] yyy=[トランスミッタの ID 番号]
レシーバ 000 にトランスミッタ yyy の映像信号を割り当てる	OUT 000 VFR yyy	[SUCCESS]Set output 000 video from input yyy.	
レシーバ 000 にトランスミッタ yyy の音声出力信号を割り当てる	OUT 000 AFR yyy	[SUCCESS]Set output 000 audio from input yyy.	
レシーバ 000 にトランスミッタ yyy の IR 入力出力出力信号を割り当てる	OUT 000 RFR yyy	[SUCCESS]Set output 000 IR from input yyy.	
レシーバ 000 にトランスミッタ yyy の IR 入力出力信号を割り当てる	OUT 000 SFR yyy	[SUCCESS]Set output 000 seiral from input yyy.	
レシーバ 000 の USB 信号入力をトランスミッタ yyy に割り当てる	OUT 000 UFR yyy	[SUCCESS]Set output 000 USB from input yyy.	
レシーバ 000 にトランスミッタ yyy の CEC パススルー信号を割り当てる	OUT 000 CFR yyy	[SUCCESS]Set output 000 CEC from input yyy.	000=[レシーバの ID 番号] yyy=[トランスミッタの ID 番号] ON=有効 OFF=無効
レシーバ 000 のファストスイッチング機能をオン/オフに設定する	OUT 000 FAST ON/OFF	[SUCCESS]Set output 000 fast switching mode On / Off.	
レシーバ 000 にトランスミッタ yyy の CEC パススルー信号を割り当てる	OUT 000 CFR yyy	[SUCCESS]Set output 000 CEC from input yyy.	000=[レシーバの ID 番号] yyy=[トランスミッタの ID 番号] ON=有効 OFF=無効
レシーバ 000 のファストスイッチング機能をオン/オフに設定する	OUT 000 FAST ON/OFF	[SUCCESS]Set output 000 fast switching mode On / Off.	time=[表示秒数、範囲:1~9(10~90 秒) 例:1=10 秒、9=90 秒]
レシーバ 000 の HDR 信号伝送機能をオン/オフに設定する ※13	OUT 000 HDR ON/OFF	[SUCCESS]Set output 000 HDR mode On/Off .	rr=[解像度 00: Bypass 01: 2160p@30Hz 02: 2160p@24Hz 03: 1080p@50Hz 04: 1080p@60Hz 05: 1080i@50Hz 06: 1080i@60Hz 07: 720p@60Hz 08: 720p@50Hz 09: 1280x1024@60Hz 10: 1024x768@60Hz 11: 1360x768@60Hz 12: 1440x900@60Hz 13: 1680x1050@60Hz]
レシーバ 000 の CEC 信号伝送機能をオン/オフに設定する ※12	OUT 000 CEC ON/OFF	[SUCCESS]Set output 000 CEC mode On/Off .	
レシーバ 000 の OSD 表示を数秒にオンに設定する	OUT 000 OSD ON [time]	[SUCCESS]Show OSD on output 000 and keep [time] seconds.	
レシーバ 000 の OSD 表示をオフに設定する	OUT 000 OSD OFF	[SUCCESS]Show OSD on/off output 000.	
レシーバ 000 の前面の電源インジケータ表示を数秒にオンに設定する	OUT 000 FLS ON [time]	[SUCCESS]Flash power LED on output 000 and keep [time] seconds.	
レシーバ 000 の前面の電源報インジケータ表示をオフに設定する	OUT 000 FLS OFF	[SUCCESS]Disable flash power LED on output 000.	tt=[角度 0: 回転しない 90: 時計回り方法 90°回転 180: 時計回り方法 180°回転 270: 時計回り方法 270°回転]
レシーバ 000 のスクエラをブリセット rr に設定する	OUT 000 RES rr	[SUCCESS]Set output 000 resolution to [rr].	
レシーバ 000 の出力映像を tt 度に回転させる※14	OUT 000 ROTATE tt	[SUCCESS]Set videowall output 000 rotate [tt].	
レシーバ 000 の出力映像のアスペクト比設定を変更する	OUT 000 STRETCH ON/OFF	[SUCCESS]Set output 000 stretch On/Off.	

※13 新しい設定を適用するため、デバイスが自動的に再起動します。

※14 ビデオウォールに割り当てているレシーバかつビデオウォールモードに設定されているレシーバの出力画面が回転します。

レシーバ 000 の Dante オーディオ出力に SPDIF 入力音声を割り当てる <sup>※15</sup>	OUT 000 AUDSD	[SUCCESS]Set SPDIF to Dante Out on output 000	
レシーバ 000 のアナログ出力に HDMI(AVoIP)音声を割り当てる	OUT 000 AUDHA	[SUCCESS]Set HDMI to Analogue output on output 000	
レシーバ 000 の HDMI 出力音声を HDMI(AVoIP)音声を割り当てる	OUT 000 AUDHH	[SUCCESS]Set HDMI to HDMI (Aspeed out) on output 000	
レシーバ 000 の Dante オーディオ出力に HDMI(AVoIP)音声を割り当てる <sup>※14</sup>	OUT 000 AUDHD	[SUCCESS]Set HDMI to Dante out on output 000	
レシーバ 000 のアナログ出力に Dante オーディオ入力を割り当てる <sup>※14</sup>	OUT 000 AUDDA	[SUCCESS]Set Dante to Analogue output on output 000	
レシーバ 000 の HDMI(AVoIP)出力に Dante オーディオ入力を割り当てる <sup>※14</sup>	OUT 000 AUDDH	[SUCCESS]Set Dante to HDMI (Aspeed out) on output 000	
レシーバ 000 の動作モードをマトリックス/ビデオウォールに設定する	OUT 000 MODE MX/VW	[SUCCESS]Set output 000 to matrix/video wall mode.	
レシーバ 000 の前面ボタン操作を有効/無効に設定する	OUT 000 BTN ON/OFF	[SUCCESS]Set output 000 front panel button On/Off .	
レシーバ 000 の IR 信号受信を有効/無効に設定する	OUT 000 IR ON/OFF	[SUCCESS]Set output 000 front panel IR On/Off .	
レシーバ 000 から出力される映像をミュートオン/オフに設定します。	OUT 000 MUTE ON/OFF	[SUCCESS]Set output 000 mute On/Off .	
レシーバ 000 から出力される映像フリーズをオン/オフに設定する	OUT 000 PAUSE ON/OFF	[SUCCESS]Set output 000 pause On/Off .	000=[レシーバの ID 番号]
レシーバ 000 からの映像出力自動モードを設定します。	OUT 000 AUTOON ENABLED/DISABLED	[SUCCESS]Set output 000 autoon enabled/DISABLED.	000=[レシーバの ID 番号] ENABLED=有効 DISABLED=無効
レシーバ 000 前面パネルのディスプレイ表示を設定する	OUT 000 LED ee	[SUCCESS]Set output 000 LED [ee] seconds auto off.	000=[レシーバの ID 番号] ee=[表示秒数、範囲:1~9(10~90 秒) 例:1=10 秒、9=90 秒]
レシーバ 000 の HDCP モードを設定する <sup>※16</sup>	OUT 000 HDCP BYP/V14/V22	[SUCCESS]Set output 000 overider to HDCP bypass / HDCP Ver 1.4/ HDCP Ver 2.2.	000=[レシーバの ID 番号] BYP=bypass(バイパス) V14=HDCP Ver 1.4 V22=HDCP Ver 2.2
レシーバ 000 を再起動させる	OUT 000 RB	[SUCCESS]Set output 000 reboot and apply all the new config.	000=[レシーバの ID 番号]
レシーバ 000 を出荷時設定にリセットする <sup>※17</sup>	OUT 000 RESET	[SUCCESS]Set output 000 reset to default setting.	

※15 Dante オーディオ対応機種 IP250UHD-RX のみ動作します。

※16 新しい設定を適用するため、デバイスが自動的に再起動します。

※17 リセットされたレシーバの設定を復元することはできません。

## トランスミッタのコントロールコマンド

項目	送信コマンド	応答	パラメータ
トランスミッタ iii の音声を 'Auto' (自動選択) に設定する	IN iii AUD AUTO	[SUCCESS]Set input iii audio select Auto.	iii=[トランスミッタの ID 番号] ON=有効
トランスミッタ iii の音声を HDMI 入力音声に設定する	IN iii AUD HDMI	Set Input iii Audio To HDMI.	OFF=無効 time=[表示秒数、範囲:1~9(10~90 秒) 例:1=10 秒、9=90 秒]
トランスミッタ iii の音声をアナログ入力音声に設定する	IN iii AUD ANA	Set input iii audio select Analog.	
トランスミッタ iii のアナログ出力に HDMI 入力音声を割り当てる	IN iii AUDAH	Set Analogue to HDMI (Aspeed out) on input iii	
トランスミッタ iii のアナログ出力に Dante オーディオ入力を割り当てる <sup>※18</sup>	IN iii AUDAD	Set Analogue to Dante out on input iii	
トランスミッタ iii のアナログ出力に HDMI 入力音声を割り当てる	IN iii AUDHA	Set HDMI to Analogue output on input iii	
トランスミッタ iii の HDMI(A VoIP)出力に HDMI の入力音声を割り当てる	IN iii AUDHH	Set HDMI to HDMI (Aspeed out) on input iii	
トランスミッタ iii の HDMI(A VoIP)出力に Dante オーディオ入力を割り当てる <sup>※17</sup>	IN iii AUDHD	Set HDMI to Dante out on input iii	
トランスミッタ iii の Dante オーディオ出力にアナログ入力音声を割り当てる <sup>※17</sup>	IN iii AUDDA	Set Dante to Analogue output on input iii	
トランスミッタ iii の Dante オーディオ出力に HDMI 入力音声を割り当てる <sup>※17</sup>	IN iii AUDDH	Set Dante to HDMI (Aspeed out) on input iii	
トランスミッタ iii の CEC 信号伝送機能をオン/オフに設定する <sup>※15</sup>	IN iii CEC ON/OFF	]Set input iii CEC mode On/Off.	
トランスミッタ iii の前面の電源インジケータ表示を数秒にオンに設定する	IN iii FLS ON [time]	Flash power LED on input iii and keep [time] seconds.	iii=[トランスミッタの ID 番号] ON=有効 OFF=無効
トランスミッタ iii の前面の電源インジケータ表示をオフに設定する	IN iii FLS OFF	Disable flash power LED on output iii.	time=[表示秒数、範囲:1~9(10~90 秒) 例:1=10 秒、9=90 秒] ee=[表示秒数、範囲:1~9(10~90 秒) 例:1=10 秒、9=90 秒]
トランスミッタ iii の前面のディスプレイ表示を設定する	IN iii LED ee	Set input iii LED [ee] seconds auto off.	
トランスミッタ iii の HDCP モードを設定する <sup>※19</sup>	IN iii HDCP BYP/V14/V22	Set input iii overider to HDCP bypass/ HDCP Ver 1.4/ HDCP Ver 2.2.	iii=[トランスミッタの ID 番号] BYP=bypass(バイパス) V14=HDCP Ver 1.4 V22=HDCP Ver 2.2
トランスミッタ iii の EDID をプリセット zz に設定する	EDID iii DF zz	Set input iii edid with default edid [zz].	iii=[トランスミッタの ID 番号] ooo=[レシーバの ID 番号]
レシーバ ooo の EDID をトランスミッタ iii にコピーする	EDID iii CP ooo	Copy output ooo edid to input iii	zz=[EDID のプリセット、詳細本書 P.37 EDID エミュレータプリセット一覧表 を参照してください]
トランスミッタ iii を再起動させる	IN iii RB	Set input iii reboot and apply all the new config.	
トランスミッタ iii を出荷時設定にリセットする <sup>※20</sup>	IN iii RESET	Set input iii reset to default setting.	

※18 Dante オーディオ対応機種 IP250UHD-TX のみ動作します。

※19 新しい設定を適用するため、デバイスが自動的に再起動します。

※20 リセットされたトランスミッタの設定を復元することはできません。

## EDID エミュレータプリセット一覧表

zz	対応 EDID	zz	対応 EDID
00	HDMI 1920x1080p@60Hz, Audio 2ch PCM(初期設定値)	01	HDMI 1080p@60Hz, Audio 5.1CH DTS/DOLBY
02	HDMI 1080p@60Hz, Audio 7.1CH DTS/DOLBY/HD	03	HDMI 1080i@60Hz, Audio 2CH PCM
04	HDMI 1080i@60Hz, Audio 5.1CH DTS/DOLBY	05	HDMI 1080i@60Hz, Audio 7.1CH DTS/DOLBY/HD
06	HDMI 1080p@60Hz/3D, Audio 2CH PCM	07	HDMI 1080p@60Hz/3D, Audio 5.1CH DTS/DOLBY
08	HDMI 1080p@60Hz/3D, Audio 7.1CH DTS/DOLBY/HD	09	HDMI 4K@30Hz 4:4:4, Audio 2CH PCM
10	HDMI 4K@30Hz 4:4:4, Audio 5.1CH DTS/DOLBY	11	HDMI 4K@30Hz 4:4:4, Audio 7.1CH DTS/DOLBY/HD
12	HDMI 4K@60Hz 4:2:0/4K@30Hz 4:4:4, Audio 2CH PCM	13	HDMI 4K@60Hz 4:2:0/4K@30Hz 4:4:4, Audio 5.1CH DTS/DOLBY
14	HDMI 4K@60Hz 4:2:0/4K@30Hz 4:4:4, Audio 7.1CH DTS/DOLBY/HD	15	HDMI 4K@60Hz 4:4:4, Audio 2CH PCM
16	HDMI 4K@60Hz 4:4:4, Audio 5.1CH DTS/DOLBY	17	HDMI 4K@60Hz 4:4:4, Audio 7.1CH DTS/DOLBY/HD
18	DVI 1280x1024@60Hz, (音声なし)	19	DVI 1920x1080@60Hz, (音声なし)
20	DVI 1920x1200@60Hz, (音声なし)	21	HDMI 1920x1200@60Hz, Audio 2CH PCM/6CH PCM
22	User EDID 1(ユーザーEDID 1)	23	User EDID 2(ユーザーEDID 2)

## ビデオウォールのコントロールコマンド

項目	送信コマンド	応答	パラメータ
ビデオウォール idx に設定 cidx を適用する	VW idx C cidx APPLY	[SUCCESS]Apply config: Configuration [C].	idx=[ビデオウォール ID 番号、範囲:01~09]
ビデオウォール idx の設定 C にあるグループ gidx にトランスミッタ iii のソースを割り当てる	VW idx C cidx G gidx FR iii	[SUCCESS]Done.	cidx=[ビデオウォールの設定番号、範囲:01~09] gidx=[ビデオウォールのグループ分け番号、範囲:01~09]
ビデオウォール idx の設定 C にある横方向hh、垂直方向vv のパネル(シングルモードであるレシーバ)にトランスミッタ ii i のソースを割り当てる※21	VW idx C cidx S Hhh Vvv FR iii	[SUCCESS]Done.	iii=[トランスミッタの ID 番号] hh=[ビデオウォール水平方向パネルの順番、範囲:01~09] vv=[ビデオウォール垂直方向パネルの順番、範囲:01~09]

ビデオウォール内の‘Single’モードに設定されているレシーバへソース割り当てする際、次のコマンドを使用してください。VW idx C cidx S H hh V vv FR iii

idx = ビデオウォールのインデックスです。

cidx = ビデオウォール設定(configuration)のインデックスです。

hh = 水平方向左から hh 番目のレシーバです。

vv = 垂直方向上から vv 番目のレシーバです。

iii = トランスミッタ(TX)の ID 番号です。

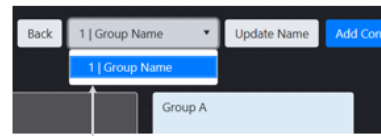
コマンド例とその動作の説明 - VW 1 C 2 S H2V3 FR 5。ビデオウォール 1、設定(Configuration)2 における、‘Single’モードに設定されているレシーバ(水平方向左から 2 番目、垂直方向上から 3 番目)の画面表示(RX)をトランスミッタ(TX)5 番に切り替えます。



※21 シングルモードに設定しているレシーバのみ適用します。

ID	Name	Vertical	Horizontal	Configuration
1	Video Wall 1	2	2	Group Name Group Name

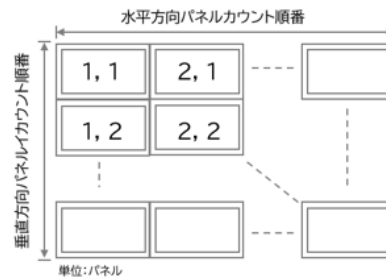
ビデオウォールのID番号(ビデオウォール名ではない)



グループのID番号(グループ名ではない)



シングルモードのパネル



パネルの位置情報 水平・垂直方向

### ご注意

ビデオウォール設定時はレシーバへ直接ソースを割り当てるコマンド(OUToooFRyyy)は使用しないでください。誤動作する恐れがあります。

## よくある質問 FAQ

故障かな?と思ったら、お問い合わせになる前に、まず、以下の点をご確認ください。

確認しても問題が解決しない場合は、お買い上げ販売店または、弊社サポートセンターにお問い合わせください。

### ACM200 のウェブ GUI にアクセスできない

下記の項目をご確認ください。

- ACM200 の Video LAN また Control LAN の RJ-45 ポートはご利用の PC と同じネットワークに接続し、かつ PC のネットワーク設定が ACM200 と同じセグメントに設定していること



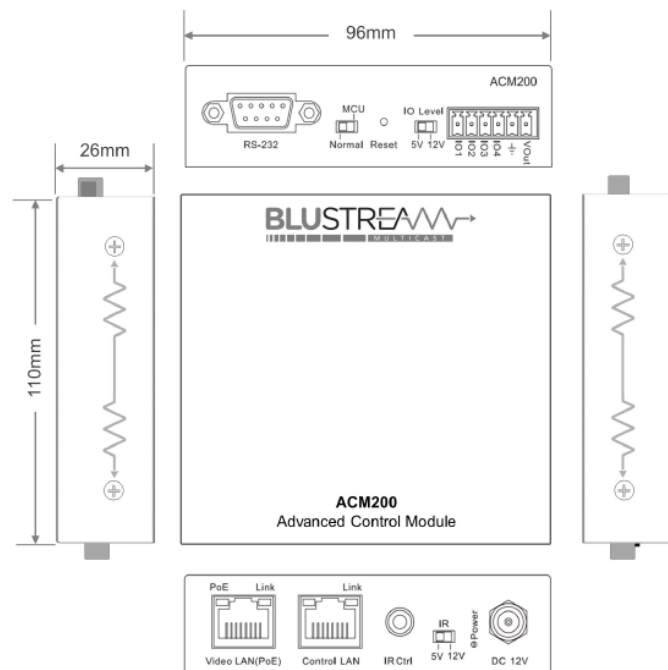
## 主な仕様

製品型番	ACM200	
I/O	ネットワーク	RJ-45 x 2、100Mbps ※ビデオ配信用 (Video LAN) ポートは PoE (IEEE802.3af) 対応
	RS-232	D サブ 9 ピン (メス) x 1
	GPIO	6 ピンターミナルブロック x 1 ※使用しません
	IR 入力	3.5mm ステレオジャック x 1 ※使用しません
電源	PoE、または DC 12V (AC アダプタ別売)	
動作温度	0°C ~ 40°C	
保存温度	-20°C ~ 60°C	
動作湿度	0% ~ 90% (結露なきこと)	
重量	約 600g	
寸法	96 x 110 x 26mm (突起物含まず)	
同梱物	ACM200 本体 x 1/ 3.5mm ステレオ~モノラルピンケーブル (IR コントロール用) x 1/ 6 ピンターミナルブロック x 1/ 取付金具 (ネジ 6 本付き) x 2/ 注意事項・保証書 x 1	
製品保証	ご購入日より 3 年間	
認証	FCC Class B/ CE/ RoHS	

※ 全ての機器との動作を保証するものではありません。

※ 製品のデザイン、仕様、外観、価格は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

## 外形寸法



## サポート専用問い合わせ先

お問い合わせの前に…「FAQ よくある質問」をご参照ください。

[www.ad-techno.com/support/info/faq/](http://www.ad-techno.com/support/info/faq/)

**それでも解決しない場合：**

**製品のお問い合わせ：** [www.ad-techno.com/support/info/contact/](http://www.ad-techno.com/support/info/contact/)

**修理のご相談：** [www.ad-techno.com/support/service/contact/](http://www.ad-techno.com/support/service/contact/)

お問い合わせの際は以下内容をご確認ください。

- ・弊社製品の型番及びシリアル番号
- ・ご質問内容(症状など)

### ご注意

本製品のサポートは日本国内での対応となります。国外での使用に関して発生した不具合に関してはいかなる責任も負いかねます。

また日本国外からの問い合わせ、技術サポートは行っておりません。